

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

目次

法人全体	1
エルベ（ケアハウス）	7
淡路エルベ（ケアハウス）	10
東浦エルベ（ケアハウス）	13
山口エルベ（ケアハウス）	18
ヴィラ勝占（特養）	19
グループホーム勝占	25
ヴィラ羽ノ浦（特養）	26
平成デイサービスセンター羽ノ浦	28
ヴィラ本郷（特養）	30
グループホーム本郷	33
ヴィラ都筑（特養）	35
平成デイサービスセンター都筑	38
ヴィラ町田（特養）	40
平成デイサービスセンター町田	43
ヴィラ神奈川（特養）	45
平成デイサービスセンター神奈川	48
ケアホーム板橋（特養）	50
グループホーム板橋	53
ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）	55
大谷口地域包括センター	56
ケアホーム葛飾（特養）	57
ケアホーム住吉（特養）	61
グループホーム渭北	66
平成デイサービスセンター渭北	68
グループホーム八万	71
八万小規模多機能センター	73
那賀町鷺敷デイサービスセンター	75
平成デイサービスセンター平田	78
平成在宅介護支援センター平田	80
平成デイサービスセンター黒磯	82
平成ホームヘルパーステーション黒磯	85
グループホーム鳴門	87
平成デイサービスセンター鳴門	89

鳴門小規模多機能センター	91
平成デイサービスセンター徳島	93
メディケアハウス平成（有料老人ホーム）	96
訪問ステーションてととと東大阪（訪問看護）	98
訪問ステーションてととと小平（訪問看護）	101
ケアプランセンター てととと小平（居宅介護支援事業）	103
訪問ステーションてととと徳島（訪問看護）	105
ケアプランセンター てととと徳島（居宅介護支援事業）	118
OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）	110
OUCHI HOME（共同生活援助）	114
岩国市岩国第三地域包括支援センター	116
サポートハウスココロネ住吉	118

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

1. 2022年度 事業計画の概要

- 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは99%、協力医療機関との連携を図りながら、日常的な健康管理を徹底し、入院等による空床を最小限に抑える。
 - 通所系は80%を必達目標とし、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携強化を図る。
 - 訪問系サービスは職員1人あたり1日5名以上の提供を努力目標とする。
 - 感染防止対策に配慮しながら、訪問活動を継続し、対面以外にもパンフレットの配布、ホームページ等での情報配信を積極的に行い、コロナ禍でも出来る限りの営業活動を実施する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支・人員配置等の管理を行い、収益の安定を目指す。
 - 事業所単位での収支分析結果等のフィードバックを活用し、各事業所に合わせたアドバイスを的確に行う。
 - 法人、グループ内での連携強化
 - 各事業所と密な連携を取り、相談できる体制を確立する。
 - 法令遵守（人員基準・加算算定に関する要件等）に関する相談・研修等を個別に実施する。
 - 感染症や災害発生時においても、必要な介護サービスが提供できるよう日頃から連携を図る。
 - 地域貢献活動の充実
 - コロナ終息後は、地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。
- サービスの質
 - 利用者の健康と安全を最優先に考えた介護サービスを提供できるよう、職員1人1人のスキルアップ及び法人全体での体制作りを行う。
 - 教育専門担当職員の配置、ラダーの確立を行う。

- 多職種連携の強化と協働ができる体制を推進し利用者の重度化防止の取組を行う。
 - 科学的介護情報システム（LIFE）を活用したPDCAサイクルにより、質の高いサービスを実施する体制を構築するとともに、更なる向上に努める。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
 - Zoom・Google Meet を活用した外部研修への積極的参加
 - 外国人職員の受け入れ後の対応（EPA、技能実習生、特定技能実習生）
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - ハラスメント対策の強化
 - 施設管理者等へのフォローアップ体制及びメンタルヘルス対策の強化
 - 福利厚生の充実、働きやすい職場環境の提供
 - 勤怠管理の徹底。残業時間の削減
 - 適切な人事評価・教育や研修の充実
 - ICT環境の整備
 - 育児・介護休業制度等の休暇取得の充実
 - 育児休業・産後パパ育休に関する相談体制の整備（相談窓口設置）
- 新規事業、改修工事
 - サポートハウスココロネ住吉
 - 開設時期：2021年6月開設予定
 - 事業内容
 - 入所（100床）
 - 障害者施設等入院基本料 13対1（診療報酬）
 - 療養介護（障害者総合支援法）
 - 医療型障害児入所施設（児童福祉法）
 - 短期入所サービス（空床利用型）
 - 外来診察
 - 在宅
 - 生活介護 20名/日（障害者総合支援法）
 - 放課後等デイサービス 5名/日
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 感染防止対策マニュアル類・BCPの整備、周知、訓練の徹底
 - 定期的な設備環境の清掃、消毒、自主点検のほか感染チームによるラウンドの実施
 - 事業所内での濃厚接触者0への取組
 - 感染症や災害時においても、必要な介護サービスが提供できる体制づくり
 - 職員へのメンタルヘルスケア

2. 運営目標（稼働率、利用者数）

高齢者事業

- 特養（稼働率）

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
ヴィラ勝占（入所）【50名】 （ショート）【10名】	99.4% 93.4%	99.8%（+0.4%） 94.5%（+1.1%）
ヴィラ羽ノ浦（入所）【50名】 （ショート）【10名】	99.4% 84.2%	100.0%（+0.6%） 95.1%（+10.9%）
ヴィラ本郷（入所）【30名】 （ショート）【10名】	96.8% 84.0%	99.0%（+2.2%） 90.0%（+6.0%）
ヴィラ都筑（入所）【110名】 （ショート）【10名】	99.4% 65.5%	99.9%（+0.5%） 90.0%（+24.5%）
ヴィラ町田（入所）【200名】 （ショート）【20名】	98.7% 97.9%	99.0%（+0.3%） 98.0%（+0.1%）
ヴィラ神奈川（入所）【140名】 （ショート）【20名】	99.1% 95.6%	99.3%（+0.2%） 97.0%（+1.4%）
ケアホーム板橋（入所）【200名】 （ショート）【20名】	97.0% 90.3%	98.5%（+1.5%） 92.1%（+1.8%）
ケアホーム葛飾（入所）【120名】 （ショート）【18名】	97.6% 95.0%	98.4%（+0.8%） 96.5%（+1.5%）
ケアホーム住吉（入所）【100名】 （ショート）【20名】	65.0% 34.0%	97.0%（+32.0%） 75.0%（+31.0%）

- グループホーム（稼働率）

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
グループホーム勝占【18名】	99.0%	100%（+1.0%）
グループホーム本郷【18名】	95.5%	97.0%（+1.5%）
グループホーム板橋【18名】	97.8%	99.0%（+1.2%）
グループホーム渭北【18名】	96.6%	100.0%（+3.4%）
グループホーム八万【18名】	94.8%	100.0%（+5.2%）
グループホーム鳴門【18名】	93.7%	98.6%（+4.9%）

- ケアハウス（稼働率）

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
ケアハウスエルベ（一般）【70名】	97.9%	98.2%（+0.3%）
ケアハウス淡路エルベ（一般）【40名】 （特定）【30名】	99.3% 93.6%	100.0%（+0.7%） 96.0%（+2.4%）
ケアハウス東浦エルベ（一般）【50名】 （特定）【30名】	99.9% 93.3%	100%（+0.1%） 95.0%（+1.7%）
ケアハウス山口エルベ（一般+特定）【50名】	92.3%	97.2%（+4.9%）
ケアハウス板橋（一般）【20名】	97.2%	99.6%（+2.4%）

- 通所介護（稼働率）

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
平成デイサービスセンター羽ノ浦【20名】	60.6%	75.0%（+14.4%）
平成デイサービスセンター都筑【22名】	67.8%	90.0%（+22.2%）
平成デイサービスセンター町田【20名】	79.7%	99.0%（+20.7%）
平成デイサービスセンター神奈川【20名】	79.7%	90.0%（+11.3%）
平成デイサービスセンター渭北【23名】	75.6%	85.1%（+9.5%）
那賀町鷺敷デイサービスセンター【35名】	62.3%	70.2%（+7.9%）
平成デイサービスセンター平田【50名】	92.8%	93.6%（+0.8%）
平成デイサービスセンター黒磯【35名】	87.6%	93.3%（+5.7%）
平成デイサービスセンター鳴門【25名】	83.2%	87.0%（+3.8%）
平成デイサービスセンター徳島【25名】	77.3%	87.8%（+10.5%）

- 訪問看護（延べ人数）

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
訪問ステーションてとと東大阪	14,592名	15,618名（+1,026名）
訪問ステーションてとと小平	9,419名	10,345名（+926名）
訪問ステーションてとと徳島	15,751名	17,808名（+2,057名）

- 訪問介護（延べ人数） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
平成ホームヘルパーステーション黒磯	3,713名	4,136名（+423名）

- 小規模（登録者数） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
八万小規模多機能センター【29名】	25.7名	27.0名（+1.3名）
鳴門小規模多機能センター【29名】	16.0名	23.0名（+7.0名）

- 居宅（ケアプラン数） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
平成在宅介護支援センター平田	1,630件	1,680件（+50件）
ケアプランセンター てとてと小平	787名	809名（+22名）
ケアプランセンター てとてと徳島	811名	840名（+29名）

- 有料老人ホーム（稼働率） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
メディケアハウス平成【20名】	96.3%	98.5%（+2.2%）

障がい者事業

- 医療型障害児入所施設（稼働率） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
サポートハウスココロネ住吉【100床】	—	60.0%

- 就労継続支援B型（稼働率） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
OUCHI CAFE KITCHEN【20名】	65.7%	90.0%（+24.3%）

- 共同生活援助（稼働率） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
OUCHI HOME【14名】	70.2%	100.0%（+29.8%）

- 生活介護（利用者延数） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
サポートハウスココロネ住吉【20名】	—	1,200名

- 放課後デイサービス（利用者延数） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
サポートハウスココロネ住吉【5名】	—	600名

その他事業

- 地域包括支援センター（ケアプラン数） *2021年度：2022年3月の見込値を含む

事業所名	2021年度*	2022年度 目標
大谷口地域包括支援センター	3,650名	3,700名(+50名)
岩国市岩国第三地域包括支援センター	1,934名	1,920名（▲14名）

2022年 3月29日

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持
 - 稼働率98.2%を必達目標とする。
 - 医療機関との連携を密にする。
 - 入院中の状況確認を行い、退院後について関係者と連携する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 消耗品の使用方法を見直し、無駄を無くす。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域の消防団員参加の防災訓練を企画する。
 - 地域の防災活動へ参加する。
 - サービスの質
 - 利用者に安心して生活していただける環境作り。
 - 気軽に話しかけられるようコミュニケーションを図る。
 - ご家族への近況報告。
 - コロナウイルス終息後、クラブ活動の再開。（書道、健康体操）
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - eラーニングを活用した研修の実施。
 - 外部研修への参加。
 - マニュアル類の整備
 - アルコール検査記録簿の作成。（道路交通法改正に伴い社用車での酒気帯の有無の確認と、記録の保存の義務化のため）
 - 消防計画の見直し。
 - 職場環境の整備
 - 巡回による感染対策の徹底。
 - 職員から利用者に積極的に声かけをする。
 - クラブ活動再開に向けて、共有ホールの整理。
 - 業務内容の見直しを行い、無駄を省く。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 一般

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	97.9%	98.2% (+0.3%)
単価 (人・日)	4,082円	4,093円 (+11円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 待機関係者へ毎月連絡し状況確認をする。
- 退去が発生した場合は、速やかに新規入居者の対応を行う。
- 協力医療機関、居宅介護支援事業所との連携を図る。
- 入居者の体調の変化に目を配る。

- その他取り組み

- 新型コロナウイルスへの対応
 - 入居者と職員の健康管理。
 - 体調不良者が出た場合は、協力医療機関に連絡しPCR検査を実施した上で受診。
 - 入居者へ定期的に注意を促す。(マスク着用、換気)
 - 必要物品を備蓄。
- 大規模災害への対応
 - 必要物品を備蓄。(非常食・飲料水以外)

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般40名 特定施設30名】

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名 特定施設-30名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - ケアハウス稼働率100%、特定施設96%を目標
 - 空床期間の短縮と新規入居者の確保に努める。
 - サービスの質
 - レクリエーションの充実を図り、認知機能低下予防、ADL維持向上を目的とした余暇活動を実施する。
 - 接遇向上に継続して取り組む。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 資格を有さない職員が介護技術、知識向上を目的とした研修会に参加できるよう支援する。資格取得につなげる。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 一般

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.3%	100% (+0.7%)
単価（人・日）	3,760円	3,786円 (+26円)

- 特定施設

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	93.6%	96.0% (+2.4%)
平均要介護度	1.19	1.3 (+0.11)
単価（人・日）	5,803円	5,951円 (+148円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- ケアハウス稼働率100%維持を目指し特定施設96%以上を維持するため、空きが出れば、すぐ入居して頂けるように新規入居者の確保、待機者への連絡調整をしっかりと行う。
- 入院した場合、退院、退居の方向性確認を早期に行う。

- 平均要介護度
 - 状態変化に応じ区分変更の検討を行い、本人、ご家族様へご提案する。
 - 特定施設の要支援者を一般入居へ変更していく等、サービス移行できる方の検討を行う。
- 加算について
 - 生活機能向上連携加算Ⅰ・Ⅱ
 - 計画的に機能訓練を実施する。また運動を習慣づけていただけるように支援する。併設病院リハビリスタッフとの連携を密に行う。
 - 医療機関連携加算
 - 健康状態把握に努め、協力医療機関に詳細な情報提供を行う。
 - 口腔栄養スクリーニング加算
 - 口腔機能の低下予防の異常の早期発見、食事摂取量、体重の減少等の状態把握に努め、情報共有を行い、状態に応じた支援を行う。
 - 歯科受診や往診の検討を積極的に行う。
 - 科学的介護推進体制加算
 - 利用者の状態管理徹底
 - ADL維持等加算
 - BIを適切に評価し、LIFEへの提出を行う。
 - サービス提供体制加算Ⅰ(介護福祉士割合70%以上)
 - 現在77%を維持する。
 - 資格を有していない職員の資格取得を研修への参加等で支援する。
 - 介護職員処遇改善支援補助金(介護職員等ベースアップ等支援加算)の新規算定
- その他取り組み
 - 買い物支援
 - コープ、コンビニやドラッグストアの無料配達の利用を支援し、買い物ができるようにする。

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率ケアハウス100%、特定施設95%を目標
 - 長期的な入院継続が必要な方へ退居を進め、新規入居者を獲得する
 - サービスの質
 - 感染症対策を徹底し、入居者参加型のシミュレーションの実施
 - 高齢者の特性と疾病について情報伝達し、発症を抑える
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 認知症介護基礎研修の受講
 - 医療・福祉関係の資格を有さない者について受講

- 主な指標 *2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 一般

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.9%	100.0% (+0.1%)
単価（人・日）	3,490円	3,550円 (+60円)

- 特定施設

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	93.3%	95.0% (+1.7%)
平均要介護度	1.5	1.7 (+0.2)
単価（人・日）	6,322円	6,500円 (+178円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 待機者を常に確保し、稼働率100%を維持する
 - 入院先の医療機関と連携、状態を把握し、退院の有無を早期に判定
 - 平均要介護度
 - 看護・介護連携し、適切な要介護度となっているか毎月見直しをする
 - 加算について
 - 生活機能向上連携加算Ⅰ・Ⅱ
 - 個別機能訓練の実施及び環境整備実施し、転倒を予防する

- 訪問を基本とするが、感染状況によってはオンラインで連携する
- 医療連携加算
 - 協力医療機関と連携し、身体状態を管理
 - 適切な内服薬の管理
 - 異常時の早期発見
- 口腔・栄養スクリーニング加算
 - 適切な歯科受診の促進
 - 嗜好品の管理
- サービス提供体制強化加算Ⅰ（介護福祉士70%以上）
 - 介護福祉士の割合70%を切らないように維持。特定職員と一般職員の管理を徹底。介護福祉士資格取得に向けて実務者研修の案内を告知し受験を推進。
- 科学的介護推進体制加算
 - 利用者の状態管理及び施設サービス計画の見直し
- ADL維持等加算Ⅰ・Ⅱ
 - Barthel Indexを適切に評価し、LIFEへ入力
- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - 介護職員へ事前説明と同意
- その他取り組み
 - 防災無線の設置
 - 1階の食堂や洗濯室に設置。淡路市から発信される行政情報や時報などの日常生活に必要な情報や災害情報等を得られるように整備する
 - 淡路島やご当地の銘菓お取り寄せ
 - 銘菓を取り寄せ、旅行気分を味わっていただく

2022年 3月29日

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：一般/特定-50名】

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：一般/特定-50名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 医療機関や介護保険サービス事業所との連携を密に行うとともに、営業活動にも力を入れ、稼働率の維持向上を図る。
 - サービスの質
 - 新型コロナウイルス感染症等の感染対策を十分に講じたうえで、コロナ禍でも楽しめるようなイベント等の立案・開催に力を入れ、入居者の施設生活に対する満足度の向上を目指す。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 施設内勉強会に加え、eラーニングの活用によるweb研修も毎月行い、職員のスキルアップや意識の向上を図る。
 - 働きやすく、意欲をもって業務に取り組むことができる職場づくりを進める。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 一般+特定

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	全体：92.3% うち一般：0% うち特定：92.3%	全体：97.2%(+4.9%) うち一般：0%(±0%) うち特定：97.2%(+4.9%)
平均要介護度（特定）	1.8	1.6 (-0.2)
単価（人・日）	一般：0円 特定：9,862円	一般：— 特定：9,739円 (-123円)

※全ての入居者が介護認定を受け、一般入居者がゼロとなったため

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 入居者・入居希望者の状況を把握し、退去が決定した場合は速やかに新規入居対応を行う。
- 協力医療機関からの退院調整を速やかに行い、体調安定後できるだけ早期に再入居できるよう対応する。
- 入居者の体調管理を徹底し、入院などの長期離脱を予防する。
- 新規獲得に向け、地域の医療機関や居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等へ積極的に営業を行い、広く入居希望者を募る。

- 平均要介護度
 - 入居者に合わせた個別機能訓練の実施によるADLの維持向上、職員のスキルアップによる対応能力の向上を図り、要介護度が高くなってでもできる限りケアハウスでの生活が継続できるよう支援する。
- 加算について
 - 個別機能訓練加算（Ⅰ）：現在算定中であり、今後も継続算定。
 - 個別機能訓練加算（Ⅱ）：現在算定中であり、今後も継続算定。
 - 医療機関連携加算：現在算定中であり、今後も継続算定。
 - 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ）：現在算定中であり、今後も継続算定。
 - 退院・退所時連携加算：現在算定中であり、今後も継続算定。
 - サービス提供体制強化加算（Ⅲ）：現在算定中であり、今後も継続算定。今後は介護福祉士比率の向上を図り、区分（Ⅰ）の算定を目指す。
 - 科学的介護推進体制加算：現在算定中であり、今後も継続算定。
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - 入居者の生活に対する満足度向上のための取り組み
 - エルベ喫茶：月に1度、入居者に軽食を提供する。
 - エルベ農園：季節に応じた野菜の栽培。
 - くつろぎスペースの設置とイベント内容の充実。
 - 外出行事が制限されるコロナ禍においても外部とのつながりを持ち、入居者自身で品物の選択・購入の機会が持てるよう移動販売を導入する。
 - 委員会活動
 - 事故防止委員会
 - 身体拘束廃止委員会
 - 虐待防止委員会
 - 褥瘡防止委員会
 - 衛生・感染防止委員会
 - 給食委員会
 - 業務・処遇検討委員会

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

グループホーム勝占【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持
 - 入所系サービス99.8%、ショートは94.5%を必達目標とする。
 - 退所後の受け入れは地域連携室との連絡を密にし、当日入居を目標とする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 人件費率等を把握し無駄な経費の削減に努める。
 - 利用者様の体調管理の徹底、現状把握に努める。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域の方々と一体となった行事等への賛同、大規模災害を想定した地域との防災訓練を積極的に実施する。
 - 施設周辺の用水清掃活動を実施する。
 - サービスの質
 - 接遇面の向上
 - 外部研修への参加を積極的に行う。
 - 職員間のコミュニケーションの充実を図る。
 - 身だしなみチェック。
 - オンライン面会を充実させ、生活の様子を身近にお伝えしていく。
 - サービスに適した人材育成。
 - WEBでの研修会に各職種ごとに参加。
 - 介護未経験者への新人研修の充実。
 - 介護福祉士資格取得に向けて研修へ参加。
 - 職場環境の整備
 - 業務内容の見直しと改善を図る。
 - 感染対策を徹底した上での休憩場所の確保。
 - メンタルサポートを実施。
 - 有給休暇取得率を上げる。
 - 感染対策の徹底。
 - 全館LED化への変更。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.4%	99.8% (+0.4%)
平均要介護度	4.1	4.2 (+0.1)
単価 (人・日)	14,620円	14,736円 (+116円)

- ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	93.4%	94.5%(+1.1%)
平均要介護度	3.7	3.7 (±0)
単価 (人・日)	13,684円	13,808円 (+124円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 待機者を常時3人確保。
- 協力医療機関からの情報提供、連携を図る。
- 居宅事業所との連携を図る。

- 平均要介護度

- 要介護度の見直しを定期的に行う。
- 医療必要度の高い方の積極的な受け入れ。

- 加算について

- 介護福祉士を手厚く配置し、短期入所生活介護において、サービス提供体制強化加算 I を算定する。
- ADL維持加算の算定に向けて積極的に取り組んでいく。
- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

- その他取り組み

- 感染対策を徹底し、少人数でのレクリエーションを充実させる。
- 仕事に目標を掲げ、モチベーションアップに繋げる。
- 南海トラフ地震を想定した防災への備え。

グループホーム勝占【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持・向上
 - 年間を通して稼働率100%を目標とする。
 - 協力病院や併施設との連携を強化し、入退居をスムーズに行う。
 - 地域密着型サービスとしての地域活動
 - 地域の方に参加していただけるイベントの企画。
 - 地域のお地蔵様の前掛け作り（交換）の継続。
 - 地域の文化祭へ作品の出展。
 - 地域住民参加型の防災避難訓練の実施。
 - サービスの質
 - 入居者満足の追及
 - 本人本位の生活が送れるよう個別ケアの徹底。
 - 日常生活の中で趣味や楽しみが見出せるよう余暇活動の充実。
 - 栄養バランスの取れた美味しく食べやすい食事の提供。
 - 入居者や家族から寄せられた相談や苦情への迅速な対応。
 - 職員の接遇面の向上。
 - 職員満足の追及
 - 日々の業務に対するフィードバック。
 - ワークライフバランスの充実。
 - 職員が感染症への不安なく業務にあたるよう、感染予防対策の徹底と職員の体調管理。
 - 有給休暇取得率のアップ。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修や勉強会の充実
 - WEB研修やe-ラーニングの積極的な活用。
 - グループホーム内での勉強会の充実。
 - 無資格者への介護福祉士資格取得支援。
 - 長期的に働きやすい職場環境の整備
 - 連続休暇を取得しやすい雰囲気作りや環境の整備。
 - 気軽に話や相談がし合える良好な人間関係の構築。
 - 時間内に業務を終えることができるよう業務の見直しと適正化。
 - 職員同士のコミュニケーションの活性化。

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.0%	100.0% (+1.0%)
平均要介護度	2.9	3.1 (+0.2)
単価 (人・日)	12,387円	12,411円 (+24円)

○ 実現するための取り組み

■ 稼働率

- 常日頃より協力医療機関のMSWや老健の生活相談員、特養の施設長及びケアマネ等と連携を密に取り、入居希望者や入居検討中の方の把握と情報収集を行う。
- 待機者を確保し、退居が生じた場合にすぐ次の受け入れができる体制を整える。

■ 平均要介護度

- 要介護度が高い方を積極的に受け入れる。
- 状態に応じて要介護度を見直し区分変更を検討する。

■ 加算について

- 栄養管理体制加算の算定
R4年3月より管理栄養士協力の下、30単位/月の算定を開始しており、継続して算定する。毎月の管理栄養士のミールラウンドと月1回の職員への助言を通して、より良い食事の提供に努める。
- 口腔・栄養スクリーニング加算の算定継続
算定要件が入居時と以降6ヶ月ごとである為、算定月を把握し取りこぼしのないよう算定する。
- サービス提供体制強化加算（I）の算定継続
算定要件である介護福祉士70%以上又は勤続10年以上介護福祉士25%以上を維持できるよう、資格取得に向けバックアップを行うと共に、長期的に働きやすい職場環境を整える。
- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

■ その他取り組み

- 余暇活動の充実
毎日の暮らしの中で楽しみを見つけ笑顔で過ごしていただけるよう、新しいレクリエーションや脳トレを取り入れる。また、新型コロナウイルスの影響で外出の機会が減っている為、施設内にいても

季節を感じていただけるような季節の行事を企画する。

- 家族交流

面会の機会が減っているが、入居者と家族との関わりを維持することができるよう、オンライン面会を積極的に活用する。また、現在年に4回発行しているグループホーム便りの発行回数の増加や臨時号の発行等を検討し、家族に日々の暮らしを知っていただけるように努める。

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは100%必達目標とする。
 - 病院・居宅介護支援事業所との連携及び営業強化による新規入所・利用者増を図る。
 - 経営分析と戦略策定
 - 稼働による収入、人件費や購入・修繕による支出状況を常に経理部門と共有し、共同で安定した運営・改善策を検討し実行する。
 - 毎月の収支を施設長はじめ各所属長も把握できる仕組みを整備し、現場職員も経営に対する意識を持つ。
 - 地域貢献活動の充実
 - 新型コロナウイルス感染症の影響により自粛している地域との交流や休止している介護予防教室（羽ノ浦健康クラブ）を、安全にかつ安心して実施できるよう交流行事等の企画を練り、学校関係者・地域住民・ボランティアへ呼び掛ける。
 - 開設から20年が経過し、より充実した福祉サービスの提供及び奉仕活動・地域行事への参加に努める。
 - 未曾有の災害に備え、市防災担当課や地域住民、近隣施設と共同で災害発生時に適切な判断の下、全員がスムーズに、かつ安全に避難活動できる体制を構築する。
 - 入所部門では、入所者本位の手厚い介護サービスを提供する生活の場としての機能を保ちつつ、近年増加傾向にある高齢者が最期を迎える看取りの場となり得る体制づくりや、知識・技術の向上、意識改革を進める。
 - 通所及び短期入所の在宅部門においても、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムを担う一施設としての自覚を持ってサービス提供に努める。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 介護福祉士国家試験受験要件を満たす職員の資格取得支援及び国家試験対策講座への参加
 - 無資格者の認知症介護基礎研修への参加
 - 技能実習2号へ移行した技能実習生の日本語検定（N3）合格に向け

た日本語学習支援

- グループ全体で取り組むキャリア段位制度における介護マネージャーの配置と制度の現場への反映。職員育成のための教育体制の構築
 - 医療必要度の高い入所・利用者の積極的受け入れに向けた介護職員の喀痰吸引研修受講及び看護職員の特定看護師研修の受講
 - 病院連携室との入退所（ベッドコントロール）調整、居宅事業所への営業及び新規利用者家族への対応を担う相談員業務従事者の育成
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 有事に備えた事業継続計画（BCP）の策定並びに訓練の実施。
 - BCPを踏まえたマニュアル類の整備及び周知の徹底
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い職場環境の整備
- 改修工事
- 2階特浴（車椅子浴から寝台浴へ）入替工事（2022年度中）

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

○ 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.4%	100.0% (+0.6%)
平均要介護度	4.1	4.2 (+0.1)
単価（人・日）	12,364円	12,827円 (+463円)

○ ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	84.2%	95.1% (+10.9%)
平均要介護度	3.3	3.3 (±0)
単価（人・日）	10,002円	10,260円 (+258円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 近隣病院との連携（入所者の体調不良等による退所後の空床期間短縮）
- 入所者の体調管理（感染・安全・環境対策の徹底により入所継続）
- 近隣居宅介護支援事業所への営業（在宅部門の新規利用者獲得）
- 併設デイサービス利用者家族へのレスパイト目的でのショート利用の勧誘

- 平均要介護度
 - 近隣病院との連携（重度要介護者、在宅復帰困難者の受け入れ調整）
 - 在宅生活継続困難者の利用調整
- 加算について
 - 日常生活継続支援加算Ⅰの算定
 - 看護体制加算Ⅰ・Ⅱの算定
 - 夜勤職員配置加算Ⅰの算定
 - 栄養マネジメント強化加算の算定
 - 口腔衛生管理加算Ⅱの算定
 - 褥瘡マネジメント加算Ⅱの算定
 - 排せつ支援加算Ⅰの算定
 - 安全対策体制加算の算定
 - 科学的介護推進体制加算Ⅱの算定
 - 経口維持加算Ⅰ・Ⅱの算定
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - ホームページを活用した情報発信、行事や取り組み等の広報の充実

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の改善
 - 稼働率75%を必達目標とする。
 - 居宅介護支援事業所のみならず、地域包括支援センター、個人医院との連携及び営業強化による新規利用者増を図る。
 - 近隣の病院、診療所、老健への営業により、退院者・在宅復帰者を新規利用へ繋ぐ。
 - 将来的な利用者獲得を見据えた老人クラブ（阿南市セニヤクラブ）との連携。介護予防事業（ヴィラ羽ノ浦健康クラブ）の案内
 - サービスの質
 - 地域包括ケアシステムの一端を担う事業所としての自覚を持ち、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、サービス提供に努める。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 介護福祉士国家試験受験要件を満たす職員の資格取得を支援し、国

家試験対策講座への参加時間を確保する。

- 無資格者へ認知症介護基礎研修の受講機会を確保する。
- 介護キャリア段位制度における介護マネージャーの配置及び制度の現場への反映（併設特養と一体的に職員教育体制構築）

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	60.6%	75.0% (+14.4%)
平均要介護度	2.0	2.4 (+0.4)
単価 (人・日)	7,968円	7,262円 (-706円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 近隣居宅介護支援事業所との連携
- 営業強化による新規利用者増
- 併設短期入所利用を活用した在宅生活継続（家族）支援

○ 平均要介護度

- 重度要介護者の利用促進（新規及び利用日数増）

○ 加算について

- 入浴介助加算Ⅰ・Ⅱの算定
- サービス提供体制強化加算Ⅰの算定
- 科学的介護推進体制加算の算定
- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

○ その他取り組み

- ホームページを活用した情報発信、行事や取り組み等の広報の充実
- コロナ禍で中止している月一回の介護予防教室（ヴィラ羽ノ浦健康クラブ）の再開

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

グループホーム本郷【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所サービスは99.0%を必達目標とする。
 - ショートステイは90.0%を必達目標とする。
 - 医療機関との連携強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支の把握と共有を行い、施設全体の経営意識を高める。
 - 稼働や支出状況の改善策を定期的で開催する。
 - 地域貢献活動の充実
 - コロナ禍で活動が困難な面は否めないが、岩国市公益活動推進協議会や周辺関係機関と協力し、地域貢献について検討していく。
 - サービスの質
 - OJTを通じチームケアを推進、組織および施設内のケアの質の向上を図る。
 - コロナ禍においても関係機関や家族等との関係性を維持するため、連絡体制の充実化を図る。
 - 求人活動
 - 地域的に人材が不足しているため、無料・有料求人媒体、紹介業者、ポスティングなど、様々な手段を用いて求人活動を継続する。
 - 働きやすい職場を目指し、離職率の低下を図る
 - 地域活動を通して、地域の方々に福祉という仕事への興味を持っていただけるよう働きかける。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - WEB・外部研修への積極的参加
 - 介護職員のキャリアアップの推進とOJT研修体系の確立
 - 内部研修によるマニュアルやBCP計画の周知と実践
 - 環境の整備
 - 十分な感染対策による安心した生活の提供
 - 業務管理による労働負担と時間外労働の削減
 - 施設設備の見直しと整備
 - 改修工事
 - 電話設備及びナースコール機器の改修
 - PAS（気中負荷開閉器）の取替

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	96.8%	99.0% (+2.2%)
平均要介護度	4.0	4.1 (+0.1)
単価 (人・日)	12,870円	13,000円 (+130円)

- ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	84.0%	90.0% (+6.0%)
平均要介護度	2.5	2.7 (+0.2)
単価 (人・日)	10,720円	10,800円 (+80円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 医療連携システムの活用を進め、適切な健康管理及び入退所における円滑な連携を図る
- 短期入所におけるのロング枠確保を継続

- 平均要介護度

- 業務体制の見直しにより、施設内体制を整備する。また人員体制の拡充を図り、受入幅の拡大を進める
- 定期的な介護度の見直し、居宅ケアマネへの情報提供

- 加算について

- 日常生活継続支援加算、サービス提供体制強化加算
 - 引き続き、入所は日常生活継続支援加算 I を、短期はサービス提供体制強化加算 I を継続算定
- 看護体制加算、栄養マネジメント強化加算の再算定
 - 看護師の人員確保を行い、当該加算の再算定を目指す
 - 新任管理栄養士のフォローを施設全体で行い、栄養マネジメントの推進を図る
- LIFEを活用したPDCAサイクル推進による加算の算定
 - 科学的介護推進体制加算に係る報告の継続
 - 看護師の人員確保により、褥瘡マネジメント加算及び排せつ支援加算の再算定を目指す

- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - コロナ禍で疎遠になりがちな家族との関係づくり
 - 家族・外部向けの広報誌、報告書の充実
 - 利用者、家族、職員向けのアンケート等を適宜実施

グループホーム本郷【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 97%を必達目標とする。
 - 地域医療機関や関係機関との連携向上を図り、ヴィラ本郷の相談員との情報共有を高める事で、よりスムーズな入退去を行うことで稼働率改善を目指す。
 - 地域支援および地域交流
 - 地域唯一のグループホームとして、地域の生活を支える重要な社会資源として運営するとともに、地域交流を推進しながら変わりゆく過疎地域本郷の将来像をともに構築していく。
 - 最も困っているご家庭からの入居を受け入れ、地域の家庭を守るという志を保持し続ける。
 - サービスの質
 - ご利用者やご家族の意見を取り入れた個別ケアに注力し、ご本人らしさを感じられる支援を行う。
 - ユニット間との協力関係を高めることで、より柔軟なサービス提供を行えるようにする。
 - 四季を感じ自然とともに過ごす事への喜びを感じられる生活を提供する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 職員の能力開発と適材適所
 - 自己覚知の推進
 - 風通しの良い意見交換
 - 接遇マナーの向上
 - 責任の明確化
 - 有効な研修の実施
 - 改修工事
 - エアコン取替工事实施中であり、来年度初旬までには完了する見込み

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	95.5%	97.0% (+1.5%)
平均要介護度	2.8	2.9 (+0.1)
単価 (人・日)	11,880円	11,897円 (+17円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 入院時の迅速な退去と新規の受け入れ
 - 併設施設をはじめとした他施設との協力関係を強化。

- 平均要介護度

- 平均要介護度は3.0程度を目標とし、特養との連携を図る

- 加算について

- 口腔栄養スクリーニング加算の算定
 - 科学的介護推進体制加算の算定
 - 栄養管理体制加算の算定
 - 医療連携体制加算について、正看護師の確保をし、
現在算定できていない医療連携体制加算の再算定を目指す。
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

- その他取り組み

- スリムな職員体制を継続し、余剰な人件費は抑制する。

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは99%、通所系は90%を必達目標とする。
 - 地域医療機関との連携体制確立し、入退所連携・情報共有システムを確立し入退院による稼働率変動を最小限にする。
 - 体調不良の兆候を早期発見・早期治療の体制づくりを行う。
 - 感染対策徹底、およびBCP策定と実践訓練を行い災害による運営被害を最小限にする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の請求内容の確認及び加算の算定状況チェックにより、基準の確認や上位加算へのチャレンジを評価し、算定漏れを防ぐ。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域自治体との協働体制の構築。毎月健康教室を開催し介護サービスの知識・技術を地域に付与する
 - 事業所、法人として地域包括システムへの参画。
 - 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築
 - サービスの質
 - 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進（LIFEのフィードバックの活用）
 - 多職種連携の強化と協働ができる体制を推進し利用者の重度化防止の取組を行う
 - 利用者のIADLに伝えられる生活環境の見直しを行う
 - 睡眠を妨げない排泄介助の導入
 - 行事食やADL低下後も見た目こだわった食事提供の提案
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
 - 外国人職員の受け入れ後の対応（技能実習生）
 - 災害対策マニュアル類の整備、周知、訓練の徹底
 - 修繕・修理・新規導入の評価および実施による安全な職場環境の構築

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.4%	99.9% (+0.5%)
平均要介護度	3.8	3.9 (+0.1)
単価 (人・日)	15,036円	15,086円 (+50円)

- ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	65.5%	90% (+24.5%)
平均要介護度	3.3	3.4 (+0.1)
単価 (人・日)	15,196円	15,246円 (+50円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 入院者数の減少

- 毎週1回多職種運営会議実施。体調不良者の共有・ADL低下兆候に対する専門職の介入を強化する。
- 看護師特定行為の実施 早期発見・早期治療の実施

- 地域営業強化

- 広報誌・ホームページでの自施設のアピール強化
- 近隣医療機関へ入所説明・家族同意・入所調整を実施

- 平均要介護度

- 認知機能低下やBPSDの方の受け入れも積極的に受けていく
- 介護度の高い方を横浜市の順位に沿って受け入れを行う
- 医療度の高い方を受けていく。

- 加算について

- 特養

- 経口維持加算 (I)
- ADL維持等加算 (I)
- 介護職員処遇改善支援補助金 (介護職員等ベースアップ等支援加算)

- その他取り組み
 - 離職率改善の取組
 - 介護福祉士の新卒クリニカルラダー3年目の導入
 - 職員満足度アンケート実施
 - ストレスチェックにより産業医と連携したメンタルフォローの実施
 - 研究・学会への参加
 - 時間外勤務の改善 時間外労働人件費25%削減
 - 施設理念・方針の職員解釈のサポートと目的を持った働き方の支援
 - 利用者レクリエーションの充実
 - 毎月の誕生日会の開催
 - 季節ごとのレクリエーション計画・実施・評価・改善の実施
 - レクリエーション後、家族への写真提供を行い利用者の反応を家族と共有する。※家族との施設生活の情報共有を強化する
 - 医療対応促進助成
 - 2021年度実績 440,000円/年
 - 2022年度目標 480,000円/年
 - 目標達成に向けた具体的な対策
 - 看護職員配置状況を維持し、医療処置が必要な方28%（全利用者中）を目標とし、医療処置が必要な利用者の積極的な受け入れを実施する。

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率・維持改善
 - 通所系は90%を必達目標とする。
 - 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築
 - 登録者数49名から65名まで上げる
 - サービスの質
 - ホスピタリティの充足
 - 多種多様なイベントの計画
 - おもてなしの接遇対応向上
 - 設えの改善 整理整頓
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
 - 接遇研修の実施

- 感染対策マニュアル類の整備、周知、訓練の徹底
- 営業技術の向上と新規地域事業所とのパイプの構築。
- その他

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	67.8%	90.0% (+22.2%)
平均要介護度	1.9	2.0 (+0.1)
単価 (人・日)	9,079円	9,129円 (+50円)

● 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 地域営業所との連携と営業の実施。月40件の訪問営業実施
 - 総合事業への営業も行い、要介護への移行者を見越した利用案内を実施
 - 相談員が地域で開催される担当者会議への参加。月4件利用の促し実施
 - 空き状況を地域ケアマネの情報ツールに挙げて新規利用獲得を実施
- 平均要介護度
 - 医療処置を要する方やBPSDのある方の受け入れも行い、要介護度の高い方の受け入れも行っていく
- 加算について
 - ADL維持等加算 (I)
 - 介護職員処遇改善支援補助金 (介護職員等ベースアップ等支援加算)
- その他取り組み
 - 施設内イベント企画実施
 - 施設庭園のOPEN、花壇の充実
 - 園芸を介した利用者参加型レクリエーションの実践
 - デイサービスの食事サービス強化
 - 「おもてなしデイサービス」を掲げた職員発信の質の見直し
 - 広報誌・ホームページでの自施設のアピール強化
 - 施設車の増加による利用地域の拡大

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは99%、ショートステイは98%、を必達目標とする。
入所申込書が届いたら迅速に対応し、新規利用者様の獲得を目指す。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
近隣病院や老健、居宅事業所との密な連絡、連携を取り信頼関係を築く。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を把握し対策案を考案していく。
月に一度の運営会議で収支関係の報告を行う。
 - 稼働、支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 近隣の高齢者の買い物送迎に参加する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。
 - 町田市災害時の二次避難施設として協定を締結し災害時には要介護者、障がい者の受入を実施。
 - サービスの質
 - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 毎年行う第三者評価機関の利用者聞き取り調査を実施し、サービスの質の向上に努める。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 全職員の認知症介護基礎研修への参加
 - 階層別研修の実施
 - 教育専門担当職員の配置、ラダーの確立

- BCPの策定と訓練の実施
- 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
- 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
- 技能実習生の技術研修の実施

- マニュアル類の整備、周知の徹底
- 業務量の適切な管理と信頼関係を築ける環境の整備

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	98.7%	99.0% (+0.3%)
平均要介護度	3.5	3.6 (+0.1)
単価 (人・日)	14,460円	14,500円 (+40円)

- ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	97.9%	98.0% (+0.1%)
平均要介護度	3.2	3.5 (+0.3)
単価 (人・日)	14,660円	14,700円 (+40円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 常時入所待機者5名の確保。

特養の入所待機者をショートステイのご利用を促し、すぐに入所へ切り替えられる体勢を整える。

- 平均要介護度

- 要介護度4と5の入所者を増やしていく。

- 胃瘻、透析の方、インスリンが必要な方など要介護度の高い方の受入を積極的に行い、平均要介護度アップに繋げる。

- 加算について

- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- ADL維持等加算の算定

- その他取り組み
 - 各ユニット毎でのレクの充実（イベントの企画）
 - ご家族様へ定期的にご利用者の写真送付（今は3ヶ月に一度）
 - オンライン面会の継続
 - 年度後半には日常生活継続支援加算が算定できるよう要介護度4,5の方、日常生活自立度Ⅲ以上の方も積極的に受け入れる。病院、老健への営業を絶やさない。

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率向上と改善
 - 稼働率99%を目指し、平均利用者19～20名を目指す。
総合事業も併用して毎月6名程の利用を目指す。
 - 稼働率が安定した段階で定員の増加を考案していく。
 - サービスの質
 - ご自宅の生活に特化した生活リハビリメニュー。
 - 重度化の防止（個別リハビリ）
 - 常勤のOTの配置し個別機能訓練加算の算定を行っていく。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 安全に利用していただけるよう、感染防止対策の強化。
 - マニュアルの整備。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	79.7%	99.0%（+20.7%）
平均要介護度	2.3	2.4（+0.1）
単価（人・日）	9,180円	9,230円（+50円）

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 曜日の斑をなくす。平均的な利用人数19名を目指す。
居宅支援事業所への営業を欠かさず利用者様の情報、新規利用者様の獲得。

- 平均要介護度
 - 要介護度の見直しや介護度の高い方の受け入れ
- 加算について
 - 個別機能訓練加算の算定（8月より）
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - ADL維持等加算の算定
- その他取り組み
 - 利用者様のリクエストが多い企画の実施。
 - 感染防止対策の強化
 - 園芸、野菜の収穫

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは99%を必達目標とする。
 - 地域医療機関との連携を強化し、円滑な入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の請求状況を把握、分析し、適切な加算算定をする。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域ケアプラザおよび社会福祉協議会、近隣の高齢者施設と連携して、地域の高齢者が安心して生活できる体制をつくる。
 - 災害時であっても事業所として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。
 - サービスの質
 - 多職種連携し、自立支援・重度化防止の取り組みを推進する。
 - 日頃のケア方法や生活環境を見直し、質の向上を図る。
 - 安眠を阻害しない排泄ケア
 - ゆったり入れる入浴環境の整備
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 感染症マニュアルに基づいた実践的研修の実施
 - 実用的な災害訓練の実施
 - オンライン研修を活用し、研修参加の機会を増やす
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
 - 外国人人材受入れ後の対応(技能実習生・特定技能)
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備
 - 役職者会議を定期開催し、各課の状況を把握、現場の意見を運営に取り入れていく
 - ご意見箱を活用し、職員一人一人の意見に耳を傾けていく

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	99.1%	99.3% (+0.2%)
平均要介護度	3.9	4.0 (+0.1)
単価 (人・日)	14,631円	14,889円 (+258円)

- ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	95.6%	97.0% (+1.4%)
平均要介護度	2.8	3.0 (+0.2)
単価 (人・日)	14,411円	14,576円 (+165円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 空床発生時の対応

- 併設ショートステイ、在宅、介護老人保健施設に入所待機者を分散して確保し、空床発生時すぐに入所できる体制を整える
- 地域医療機関と連絡を密に取り、入院者の状況を常に把握しベッドコントロールへ繋げる

- 地域への営業

- 近隣医療機関および介護保健施設、居宅介護支援事業所へ定期的な訪問と連絡を行い、情報共有を図る
- 施設ホームページの充実化を図り、宣伝強化

- 平均要介護度

- 認知症症状が重度、医療処置を要する在宅生活の継続が困難な方を受け入れていく

- 加算について

- ADL維持等加算（I）の算定
- 日常生活継続支援加算の算定
- 排せつ支援加算の継続算定
- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

- その他取り組み
 - コロナ禍における対応
 - ご家族様に対し、生活状況を共有
 - オンライン面会の継続・広報誌の発刊・ホームページの充実・写真付きメッセージカードの配布
 - 快適な職場環境づくり
 - 安全衛生委員会を中心としたイベントの企画
 - 園芸クラブ、音楽隊、運動部の実施

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持・改善
 - 通所系は必達目標90%とする
 - 感染症や災害発生時であっても、必要な介護サービスが提供できる体制づくり
 - サービスの質
 - 多職種連携し、自立支援・重度化防止の取り組みを推進する。
 - 日頃のケア方法や環境を見直し、ケア・サービスの質の向上を図る。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 感染症マニュアルに基づいた実践的研修の実施
 - オンライン研修を活用し、研修参加の機会を増やす
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
- 主な指標 *2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	79.7%	90.0% (+ 11.3%)
平均要介護度	2.0	2.2 (+0.2)
単価（人・日）	9,287円	9,452円 (+ 165円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 居宅介護支援事業所との連絡を密に取り、ご利用者様の利用状況や空き状況の共有を図り、信頼関係を構築する。

- 欠席率を考慮し、登録者数を1日平均23名にする。また欠席者へ振替利用を促せるようなイベントを実施する。
- 平均要介護度
 - 認知症症状重度の方や医療処置を要する介護度の高い方も受入れていく。
- 加算について
 - ADL維持等加算（I）の算定
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - 個別性のあるイベント・レクリエーションの実施
 - 誕生日に本人のやりたい事を実現する企画の実施
 - 特技や経験を活かしたイベントの実施
 - 短歌会、ウクレレ、三線の演奏会
 - 選択できるレクリエーションの実施
 - 運動系のレクと制作系のレクの並行実施

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

グループホーム板橋【定員：18名】

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

大谷口地域包括センター（地域包括）

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービス（ユニット）は98.9%、（従来）は98%、（ショート）は92.1%を必達目標とする。
 - 医療体制を整え、入院者数の減少と入院者の退院再入所をスムーズに行い、稼働の維持に努める。
 - 異常の早期発見、早期治療の開始により入院の回避を図りベッド稼働の維持に努める、特に脱水による体調不良者(尿路感染の予防を含む)を発生させないよう管理する。
 - 即日、入所判定会議を開催しタイムロス無くし入所をスムーズにする。
 - 営業活動の強化(特に老健、居宅介護支援事業所との連携を強化する)
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握し、問題点の解決案を検討する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 加算の取得状況を精査し、改善策を検討する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 地域互助運送への協力や予防教室の実施を行う。
 - 地域の防災活動に参加するとともに福祉避難所としての準備を行い災害時の受入を実施する。
 - サービスの質
 - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。CS活動を活発化しニーズの調査や第三者評価の実施による適切な評価を基にサービスの質の向上に努める。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加と資格取得の支援
 - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進

- 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
 - 接遇マナーの向上
 - ラダー導入による知識技術の向上に努める。
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 中途入職者研修の実施。グループ及び施設の理念を理解する。
- マニュアル類の整備、周知の徹底
- 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

○ 入所(ユニット)

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	96.8%	98.8% (+2.0%)
平均要介護度	3.7	3.8 (+0.1)
単価 (人・日)	15,200円	15,300円 (+100円)

○ 入所(従来)

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	97.5%	98.0% (+0.5%)
平均要介護度	3.7	3.8 (+0.1)
単価 (人・日)	13,068円	13,250円 (+182円)

○ ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	90.3%	92.1% (+1.8%)
平均要介護度	3.0	3.2 (+0.2)
単価 (人・日)	15,804円	16,000円 (+196円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

■ 協力医療機関との連携強化

- 地域連携と連絡を取り退院の目的が立ちそうな方の情報共有を行い、入退所の予測を行いながらベッドコントロールを行う。

- 待機者の確保
 - 常時5人の待機者を確保する。
 - 毎日16:45から相談員・ケアマネ・施設長でミーティングを行い入退所情報の共有と今後の動きを検討する。
 - 入所判定会議は即日行い判定までの時間を短縮し、目標値までの待機者がいない場合は、上位者の面談を行う。
 - ロングショート割合を40%に目標設定する。
 - 営業活動の継続
 - 病院、老健、居宅事業所等に通常営業とFAX営業を実施。
 - 病院を訪問し施設からの入院患者の状態を定期的に確認し退院の予測を立てる。
 - 入居者体調管理により入院者数の減少
 - 栄養評価や尿路感染、誤嚥性肺炎の予防に努め入院が必要となるリスクを未然に防ぐ。
- 平均要介護度
 - 平均要介護度3.8以上を目指し医療依存度の高い利用者の積極的な受け入れを行う
 - 胃瘻、腸瘻、透析患者、インスリンの必要な利用者の受け入れ
- 加算について
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の変更
 - ADL維持加算
 - サービス提供体制強化加算→日常生活継続支援加算
- その他の取り組み
 - ご家族への情報提供
 - ケア板通信の充実、レクや日常生活でのフォト、職員からのメッセージカードを請求書発送時に送付する。
 - 看取りの実施と活動の質の向上（現在10症例実施）

グループホーム板橋【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の向上と維持
 - 稼働率99%を必達目標とする。
 - サービスの質
 - 複合施設の強みの活用(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士との連携相談)

- 人材育成、職場環境の整備
 - 認知症スペシャリストの養成
 - 外部研修の参加と内部研修の実施による養成。
- その他の取り組み
 - 看取りの実施と活動の質の向上(現在2症例実施)

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	97.8%	99.0% (+1.2%)
平均要介護度	2.2	2.2 (±0)
単価 (人・日)	15,169円	15,400円 (+231円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 待機の確保
 - 3名以上の待機者を確保する
 - 5日以内で入居案内を行う
 - 平均要介護度
 - 平均要介護度2.2以上のを旨し要介護度の高い利用者について積極的な受け入れを行う。
 - 加算について
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - 看取り介護加算の新規算定
 - サービス提供体制強化加算Ⅱ→Ⅰ(変更)
 - その他取り組み
 - 認知症ケアの専門性の向上を積極的に行い、より多くの専門性が発揮できるグループホームを目指し、認知症ケアの質の向上を図る。
 - 認知症介護実践者研修・認知症介護実践者リーダー研修などの資格取得を進める。
 - 地域との交流を深め施設内でのクラブ活動や地域に外出する機会を設けご利用者様のニーズに合わせた地域との関係構築を図る。

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 待機4件の確保
 - ADLの評価を適切に行い退所時期の見極めを行い、次の入所を適切にコントロールする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - サービスの質
 - 趣味の充実を図る
 - 新型コロナウイルス感染症の終息を待って、レク活動の再開(クラブ活動)やサークル活動の実施を行う(映画鑑賞会、ディスタンスを保ったお茶会の実施)。

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

○ 一般

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	97.2%	99.6% (+2.4%)
単価(人・日)	3,836円	4,100円(+264円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

■ 満床を目標

● 待機者の確保

- 4名以上の待機者を確保する
- 退所後5日以内に入室の案内を行う
- 包括や居宅との情報の共有

○ その他取り組み

- ご利用者様のご意見・ご要望を伺うため、年2回(3月・9月)に懇親会を開き、ご家族とのコミュニケーションも大切にしながらニーズの調整する
- クラブ活動、サークル活動の積極的に参加できるように働きかける

大谷口地域包括センター（地域包括）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 収支バランスを踏まえて職員数を精査する。
 - 包括人員を7名体制以下であれば、経常利益が黒字化する。現在5名体制である。
 - サービスの質
 - 近隣住民や居宅事業所、医療現場から信頼されるために、個々のスキルアップ（問題解決能力・事業内容の深識等）を図る
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 包括の事業を理解し、包括全職員が対応できるように区主催の研修に参加
 -

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
ケアプラン数	3,650名	3,700名（+50名）
平均要介護度	—	—
単価（人・月）	5,183円	5,500円（+317円）

- 実現するための取り組み
 - 登録者数
 - 地域の人口動態は昨年とほぼ同様である為、ケアプラン数は昨年と同程度を予測する。新規相談を大切にし新規利用に繋げていく。
 - - 委託件数の削減
 - 適正配置7名に対して5名で活動、その為委託件数が増加し現在6割の委託率である。適正人員配置により委託率の削減を図る。
 - その他取り組み
 - 民生委員及び町会をはじめとする地域の関係機関との連携強化に向けて顔の見える関係を構築する。
 - 包括次年度計画に基づき、各会議の開催を実施。
 - 予防事業の活発化。

2022年 3月29日

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは98%を必達目標とする。
 - 申込後、区からリストが戻り次第、入所判定までを1週間以内に実施する。
 - 協力医療機関、地域医療連携室との連携強化を図り、スムーズな入退所の仕組みを構築し最適なベッドコントロールを行う。
 - 相談課内の業務分掌の明確化と職員増員により営業活動の強化を図る
 - 看護体制の強化及び低栄養リスクを未然に防ぐ取り組みにより、入院者数の減少につなげる
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支状況を定期的に各部署役職者と共有する。
 - 定期的に各部署からの課題を抽出し、稼働や支出状況の改善策を検討し策定、実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - コロナ終息後は地域行事への参加を積極的に推進し、近隣の清掃活動を実施する等、地域との繋がりをより強固なものにすべく活動を継続する。
 - 感染症、災害発生時に備え事業継続計画(BCP)を策定、発生時に福祉避難所として地域貢献できる体制づくりに努める。
 - サービスの質
 - 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組推進をより強化する（LIFE）
 - 開設3年目、コロナ禍での施設運営にあたり他職種連携の強化を更に推進し、協働に支えられたサービス提供体制を確立し質の向上に繋げる。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
 - 各種マニュアル類の整備、周知徹底

- 各部署役職者を配置し職員が相談しやすい環境を整え、問題の芽を早期に解消できる組織とする。
- 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

○ 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	97.6%	98.4% (+0.8%)
平均要介護度	4.0	4.0 (±0)
単価 (人・日)	15,489円	15,500円 (+11円)

○ ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	95.0%	96.5% (+1.5%)
平均要介護度	3.2	3.3 (±0.1)
単価 (人・日)	15,732円	16,050円 (+318円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

■ 入院者数の減少

- 医務課、栄養課、介護課が連携し低栄養リスクの早期発見、早期改善につなげる取り組みを行い、入院者数の減少に努める。

■ 営業活動強化

- 営業活動の強化目標として毎月40件以上の営業件数を目標とする
- 相談課職員を増員して営業活動強化を図る
- 広報誌・ホームページでアピール強化すると共に地域の回覧板・掲示板等に施設情報を回覧・掲示する。

■ ショートステイ運営の質の向上

- 職員を増員し、接遇面のチェックを定期的に行い、安心してご利用いただける体制強化を進めリピート率向上へ繋げる。

■ 待機者の確保

- 満床時においては常時10名の待機を確保する。

○ 平均要介護度

- 認知機能低下やBPSDの方の受け入れも積極的に進めていく

- 加算について
 - 栄養マネジメント強化加算の継続算定
 - 褥瘡マネジメント加算の継続算定
 - 排せつ支援加算の継続算定
 - 安全対策体制加算の継続算定
 - 2021年度LIFEを活用した新規加算の継続算定
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - 地域との交流
 - 全国のお茶農家の方々とWEBで交流しながら地元のお茶やお茶菓子を楽しむ取り組み
 - 葛飾区のマルシェの商品をケアホーム葛飾で出店。利用者様にもお買い物をしていただく機会を作る
 - 地域の神社や公園の清掃奉仕活動を行う
 - BCP見直しにより、防災対策の強化
 - 利用者の生命と支援の維持、職員の生命、地域貢献を目的に策定
 - 形骸化させないよう防災委員会を中心に職員を巻き込んで更新をかける
 - 動物セラピー
 - ドッグトレーナーの管理の下、セラピードッグと利用者との触れ合いを通して癒しの時間を提供する
 - ユニットサービス向上委員会による農園作り・レクリエーションの充実
 - 敷地内に農園を作り、利用者様にも参加していただき季節の野菜や花を育て収穫する

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の目標
 - 特養97%・ショート75%を年間平均の必達目標とする。
 - 入所・短期入所生活介護とともに相談・依頼があれば迅速に対応し、受入体制を整えます
 - 申込み・相談があればすぐに対応を意識づけて実施を継続
 - 協力医療機関や近隣病院との地域連携との関係作りを図りスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - ベッドコントロールに携わる職員の連携を図るため毎日のミーティングを実施
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を把握し適正な運営を行う。
 - 各職種の適切な人員配置を把握し、過剰な人員配置にならないように配置調整を行う
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 定期的に運営会議にて役職者と情報共有を図るとともに改善案を検討
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する
 - 神戸大学附属中学校等の地域との交流を図り関係性の構築を図る
 - コロナ渦における地域貢献について、検討するとともに取り組みをHPや広報誌を活用し周知する
 - 事業所、法人として東灘区の地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく
 - サービスの質
 - 利用者最優先で、ケアホーム住吉の理念でもある笑顔で気持ちのいい挨拶を心がける。また職員の接遇面を良くするために研修や指導体制を構築する。
 - 個々の技術面のみならずチームとして一定基準以上のサービスを提供する体制を確立する。

- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 体験型の研修を経験しフィードバックすることで様々な取り組みをフラッシュアップさせる
 - 感染症・身体拘束・災害等々
 - 外部研修への積極的参加と資格取得の支援
 - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
 - 入職1年以内に完了する
 - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
 - 接遇マナーの向上
 - 接遇研修を実施し、ひとりひとりの意識づけと職員間での注意喚起できる体制を構築
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - ユニットリーダー、フロアリーダーを確立し組織として職員指導を進める
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底
 - 委員会・介護手法・感染症対策・看取り・事故防止等のマニュアルと指針について委員会を中心に適宜見直しを実施する
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

- 入所

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	65.0%	97.0% (+32.0%)
平均要介護度	3.9	3.9 (±0)
単価 (人・日)	14,400円	14,800円 (+400円)

- ショート

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	34.0%	75.0% (+31.0%)
平均要介護度	3.3	3.5 (+0.2)
単価 (人・日)	14,700円	14,800円 (+100円)

- 実現するための取り組み
 - 特養稼働率
 - 目標達成に向けた具体的な方策
 - 入所申込件数を増やすために、毎月の営業を40件以上実施
 - 入所判定委員会は随時実施し、入所待機者は常時10名を待機
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築するとともに入所対応を継続する
 - 管理者、相談員、ケアマネと毎日のミーティングを実施し、稼働に関する現状把握及び対応を行う
 - 平均介護度
 - 今年度目標：3.9
 - 特養の入所要件の要介護3以上となっておりますが、基本的に介護度が高い方（要介護4・5）を優先的に受け入れを実施します。
 - 加算について
 - 日常生活継続支援加算の算定継続
 - 日常生活継続支援加算の算定継続できるように、新規入所者にかかる算定根拠を理解し進める
 - 算定を継続できるよう要介護度4,5の方の受入れを優先的に実施する
 - 要介護度の割合で要件を満たせない場合、日常生活自立度Ⅲ以上の割合での算定も同時に確認する
 - 排せつ支援加算の算定
 - 入所時等に排泄状況の評価等を実施し多職種連携を図る
 - 安全対策体制加算の算定
 - 事故防止委員会の委員長及び委員会職員に算定に必要なリスクマネジメント研修を受講する
 - 夜間職員配置加算Ⅲ及びⅣの算定
 - 毎日、夜勤看護師の配置もしくは喀痰吸引等の実施ができる介護職員を配置する
 - 喀痰吸引等の介護職員に指導できるよう、看護師が必要な研修を受講する
 - LIFEを活用した加算の算定
 - LIFEへの登録と厚労省に提出が必要なデータをほのぼの記録管理を実施し加算算定を進める
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

- ショート稼働率
 - 目標達成に向けた具体的な方策
 - LS利用者 10名確保を目標
 - 入所待機者をLS待機で案内し、LS利用者を確保する
 - 緊急ショートの受け入れ
 - 緊急ショートの依頼は基本的に受け入れる
 - 利用者様の満足度を高める
 - 利用者ニーズの高い、リハビリ・口腔ケアを専門職種が定期的実施
 - 毎月・毎日のレクリエーションを計画し実施
- 加算算定
 - 看護体制加算Ⅲ及びⅣの算定
 - 中重度受入要件の条件を達成する
 - 要介護3以上のLS利用者を一定数以上受入れる
 - 夜間職員配置加算Ⅲ及びⅣの算定
 - 毎日、夜勤看護師の配置もしくは喀痰吸引等の実施ができる介護職員を配置する
 - 喀痰吸引等の介護職員に指導できるよう、看護師が必要な研修を受講する
 - サービス提供体制強化加算（Ⅱ）の継続
 - 介護福祉士の割合（60%）以上になるように職員配置を実施
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 稼働率100%を目標とする。
- 営業活動にて待機者を10名以上確保する。
- 協力医療機関や関係機関との情報共有を高め入退居を円滑に行う。
- 重度者の入居受け入れ対応ができるよう協力医療機関・訪問看護ステーションとの24時間の連携を行う。
- 職員一人一人が感染予防を心掛けながら経費の削減にも心がける。

- サービスの質

- 入居者様・ご家族様一人一人の思いを取り入れたケアを職員で話し合い実施していく。
- 感染予防を考えた個別レクリエーションや施設内外の行事の充実を図る
- コロナの中面会が制限され家族様・親しいご友人との交流も難しくあるがお手紙やオンライン面会を積極的に進め疎遠にならないよう対応していく。

- 人材育成・職場環境の整備

- 無資格者への認知症基礎研修の受講・資格取得への支援。
- e-ラーニングを使用した研修
- 外部研修やWeB会議を利用した研修への参加
- 職員同士が話し合える意見交換の場を作る

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	96.6%	100% (+3.4%)
平均要介護度	2.5	3.2 (+0.7)
単価 (人・日)	12,317円	12,525円 (+208円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 協力医療機関・訪問看護ステーションとの連携強化により入居者様の状態を把握し早期対応を行う。

- 空室を失くすため定期的に協力機関の病院・地域連携室のケアマネ・入居待ちのご家族様と定期的に連絡を取り退居から新規入居までの期間の短縮を図る。
 - 営業活動を行い待機者の確保に繋げる。
- 平均要介護度
 - 要介護度の高い方も安心して入居できる体制を作り入居申込者を確保し積極的に受け入れる。
 - 状態に応じて介護度の見直し区分変更を申請する。
- 加算について
 - サービス提供体制強化加算(Ⅰ)の新規算定
算定要件である介護福祉士70%以上又は勤続10年以上介護福祉士25%以上を維持できるように職場環境を整える。
 - 生活機能向上連携加算Ⅱ（リハビリテーション専門職と連携して個別機能訓練計画の進捗状況を3ヵ月ごとに1回以上評価し、必要に応じて計画・訓練内容等の見直しを行う）加算人数を増やす。
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - ホームページの定期的な更新を行い外部の方に施設の取り組みを知っていただく。
 - 感染対策を徹底したうえで地域との交流に取り組む。
 - 家族様との交流が難しくなっているが関りが途切れないようオンラインの面会の積極的な活用や手紙・電話での連絡を行い入居者様の状態を共有して頂く。

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率、90%を目標とする。
 - 登録者数、65名を目標に営業活動を行っていく。
 - 必要なものを見直し・無駄を省き、職員が経費削減を意識する。
 - グループ内の連携を行い、法人や各事業所に運営状況等が相談できる。

- サービスの質
 - 利用者様・ご家族様のニーズを把握し、自立支援・相談・介護軽減に努める。
 - 中重度者の受け入れができる環境づくり・職員の知識向上・医療福祉の連携が取れるよう外部との連携強化を行う。
 - 地域の様々な活動（地域防災等）に参加し、地域住民との交流を行っていく。
 - 新型コロナウイルスへの対応
 - 感染防止のマニュアル等の周知徹底（濃厚接触者を作らない）
 - 自主点検を行い環境整備・清掃・消毒の確認
 - レクリエーションの工夫

- 人材育成、職場環境の整備
 - e-ラーニングを使用した勉強会・外部の研修（Web）に参加
 - 職員一人一人が介護についての個人目標を立てる。
 - 随時、業務の見直しや効率化を考えていく。
 - 体調不良時にお休みが出来る等、働きやすい環境や風通しの良い関係づくり

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	75.6%	85.1% (+9.5%)
平均要介護度	1.9	2.0 (+0.1)
単価（人・日）	7,600円	7,400円 (▲200円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 居宅訪問やケアマネとの連絡を継続し、情報提供や情報収集を行っていく。
- 利用者様からの紹介者を体験・新規利用に結び付けていく。
- 地域の町内会や民生委員等に広報活動を行い、地域の利用者を増やす。
- 利用者様の状態変化やご家族様の声に合わせて、利用曜日の追加等の提案をしていく。

- 平均要介護度

- 中重度者の受け入れを積極的に行い、平均要介護度を上げていく。

- 加算について
 - 個別機能訓練Ⅰ（イ）加算を落とさないよう、看護師も機能訓練指導員として業務にあたる。
 - サービス提供体制強化加算Ⅰ（介護福祉士の割合70%以上を保持）
 - 科学的介護推進体制加算（利用者様のデータの提出とフィードバック情報を活用していく）
 - 入浴加算Ⅱの算定件数を増やしていく。
 - 運動器機能訓練加算の算定継続
 - ADL維持等加算（新規算定/データの提出の継続）
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

- その他取り組み
 - コロナ禍で自粛され引きこもりになっている方が、安心して利用できる感染対策の徹底した施設を目指し、利用者様を増やしていく。
 - 生活が豊かになるように利用者様の「したい活動」から「できる活動」を支援していく。
 - コロナ終息時には、ボランティア・遠足・地域の文化祭等を再開していく。

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

八万小規模多機能センター【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 2021年度の稼働率は少し上がったが、2022年度の目標は稼働率100%。協力病院の地域連携室と常に早めの連携を図る。
 - サービスの質
 - 家族様と定期的に連絡を取り、信頼関係を築き、家族様の協力も頂きながら、その人らしい安心した生活が送れるようなサービスの提供を行う。
 - コロナ感染対策を十分行い、入居者様が安心して過ごせるよう、また外出出来なくても施設内で楽しく過ごせるようなサービスの提供を行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 無資格の職員が入職された場合、基礎研修の受講をして頂く。今後も資格習得の支援を行い、質の向上を目指す。
 - リモートの勉強会に参加したり、eラーニングでの勉強会を継続する。
 - コロナの影響によりユニット間の交流は控えているが、内線などを利用し職員同士の交流を図る。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	94.8%	100.0% (+5.2%)
平均要介護度	2.4	2.6 (+0.2)
単価 (人・日)	12,348円	12,450円 (+102円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 協力病院の連携室やグループ内の施設との連携を取り、空床を1日でも短く出来るような早めの対応を心掛ける。
 - グループ内以外の居宅等との連携を図る。
 - 平均要介護度
 - 前年度より低下している為、積極的に要介護度の高い方の受入を行う。
 - 状態に応じて、申請日を待たずに早めの区分変更を行う。

- 加算について
 - 生活機能向上連携加算の人数を増やす。
 - サービス提供体制強化加算（I）算定継続
勤続年数10年以上の介護福祉士は39%、全体の介護福祉士の割合が76%に増え、安定している。
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

- その他取り組み
 - ホームページや八万だよりを定期的に更新し、家族様や外部の方に施設の事を知って頂き、認知度を上げたい。
 - 県外の家族様やコロナの影響で面会が出来ない為、オンライン面会を積極的に行う。

八万小規模多機能センター【登録定員：29名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 看護職員も増えたため、医療度や介護度の高い方も積極的に受け入れていっそうの経営の安定を図っていきたい。
 - サービスの質
 - 利用者様の視点に立ち、一人一人のニーズを把握し、必要なサービスを提供し、慣れ親しんだ地域の中で生活が継続できるように支えていく。
 - コロナの影響が続いているが、感染対策を十分に行い、安心して利用していただけるサービス提供を行う。
 - 感染対策によりレクリエーションの影響はあるが、通いに来ていただいた利用者の方が楽しめ、季節を感じていただけるように日々のサービス内容の充実を図っていく。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 職員の定着率が高いが、それぞれなれ合いにならないよう気を付け、職員一人一人が仕事に自覚をもって取り組めるような目標設定を行う。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
登録者数	25.7名	27名（+1.3名）
平均要介護度	1.7	1.9（+0.2）
単価	4,315円	4,906円（+591円）

- 実現するための取り組み
 - 登録者数
 - 27名（稼働率93%以上を確保）
 - 地域の病院の医療連携室、居宅介護支援事業所、有料老人ホームなどとの連携を密にし、小規模のサービスの特性を伝え、新たなニーズを常に確保していく。
 - サービスのニーズの把握をして、通い・訪問・泊りのサービスを組み合わせながら、必要なサービスが提供できるように利用調整を行う。
 - 平均要介護度
 - 積極的に要介護3以上の利用者の方を受け入れていく。
 - 加算について
 - 訪問体制強化加算：月200回以上の訪問を行い、1,000単位/月を落とさないようにする。
 - サービス提供体制強化加算（Ⅰ）：介護福祉士の割合70%以上を確保し、引き続き介護福祉士受験資格のある職員が資格取得できるようバックアップをしていく。
 - 看護体制加算（Ⅲ）：新たに算定し、480単位/月を確保する。
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - 営業活動
 - 地域の医療機関の連携室、居宅、介護老人保健施設、有料老人ホーム等との良好な関係を築きながら新規獲得がスムーズにできるように営業活動を行う。

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

那賀町鷺敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

高齢者事業

那賀町驚敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 利用者の減少により稼働率の低下が続いているため営業による体験者・新規利用者の獲得できるよう利用者からの口コミ、介護支援事業所・地域住民からも認識してもらえるようにPR活動にも力を入れていき新規利用の獲得をし、稼働率を上げていく。
 - サービスの質
 - ミーティングや申し送りにて現在の利用者の生活環境を把握し、残存機能の低下防止ADLの向上と自立化を目指していく。
 - 利用者目線で考えデイへ来る楽しみを作る。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 無資格者への認知症介護基礎研修の受講
 - 月1回の勉強会による職員のスキルアップ
 - 仕事と家庭の両立がしやすいよう、働きやすい職場環境作り
 - 改修工事
 - 厨房内のスチコンの購入（納期4月中旬予定）

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	62.3%	70.2% (+7.9%)
平均要介護度	1.6	1.7 (+0.1)
単価（人・日）	7,761円	7,897円 (+136円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 営業からの体験利用・新規利用者の獲得。
 - 地域性を生かし利用者や家族、地域住民からの口コミをしてもらえるようなレクレーションやイベントを考えて利用してもらう。
 - ケアホームのホームページにデイの記事も載せて知ってもらう。

- 平均要介護度
 - 介護度が高い方は負担も大きいが積極的に利用してもらい、利用回数も増やしていく。
- 加算について
 - サービス提供体制強化加算（Ⅰ）を引き続き算定可能
入浴介助加算（Ⅱ）は、家族・ケアマネの理解をできるだけいただき人数を増やしていく。
- その他取組
 - コロナ禍で、できることが限られるが、昨年できなかった、外出行事のお花見など利用者さんに楽しんでいただけるようなイベントを増やし、活性化につなげる。
 - コロナが落ち着いたら、利用者さんも職員も心待ちにしているボランティア様の来所ができるようにする。
 - 地域の方とのつながりも大切にして一緒にできるイベントも考え、驚敷デイ楽しいな！いいところやな！と思ってもらえるようにする。
 - 毎月の行事やイベントもデイ通信やホームページを活用し家族様や多くの方に知ってもらい一人でも多くの方に利用していただけるよう取り組み、色々な方法で驚敷デイを知ってもらえるようにアピールをしていく。

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

平成在宅介護支援センター平田（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 2022年度は新型コロナウイルスの影響が残りつつも、稼働率をキープさせるには体験者・新規利用者の獲得を利用者・利用者家族からの口コミ宣伝の影響が大きく、現利用者からの宣伝力を利用する
 - サービスの質
 - コロナ感染症対策としてサービス提供するフロアを1階と3階に分け最大25名ずつとなりフロアスペースが広がりゆったりと過ごしていただく。
 - レク以外に空いた時間の充実を図る
 - 創作活動の提供
 - はぎれを使つてのつまみ細工
 - 看護師常駐により重度要介護者の受入れが可能となり介護職員のスキルアップにも繋げる
 - 静養室のベットが常用できるため、在宅で可能な医療行為の実施と介護職員による補助
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 生活相談員同等の介護職員の育成
 - 相談員研修の参加
 - 他事業所とのやり取りによる接遇面
 - 女性が多く働いている職場のため、仕事と家庭を両立できるよう時間外労働をなくし、業務内容を月1回開催している職員会議で見直す
 - 改修工事
 - 全ての給水管の置き換え工事
 - その他
 - 地域住民の安心と介護予防の拠点としても活動していけるように居宅と協力して相談対応に取り組む

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	92.8%	93.6% (+0.8%)
平均要介護度	1.8	2.0 (+0.2)
単価（人・日）	8,256円	8,327円 (+71円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 93.6%を目標とし利用日の休みになればマイナスにならないように振替利用を確実に作る
 - リラクゼーションの再開で追加利用を見込む
 - 平均要介護度
 - 看護師の常駐にて訪問看護や病院とも情報共有ができるため医療処置が必要な重度介護度の受入れも可能
 - 加算について
 - 個別機能訓練加算(Ⅰ)ロ⇒看護三人体制で算定が見込め、出勤日数上二人体制時は個別機能訓練加算(Ⅰ)イを算定する
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - その他取り組み
 - リハビリ部から提案いただいた体操をより多く取入れ、リハビリ的な体操をしっかり行うデイサービスとして他事業所に売り込む
 - 創作活動での手作業による指先の残存機能を伸ばす

平成在宅介護支援センター平田（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 要介護者が居宅サービスを適切に利用できるような心身の状況、置かれている環境、要介護者の希望などを勘案し、居宅サービス計画を作成するとともに、サービス事業者等との連絡調整を行い介護保険施設などへの入所を要する場合は紹介などを速やかに行っていく。
 - サービスの質
 - 自己評価を行いサービスの質の向上を目指し適切な給付管理を行っていく。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 各種の研修会に参加し意見交換する事や介護保険上のサービスだけでなくそれ以外のインフォーマルなサービスのネットワークを作り、より利用者にとって快適な暮らしが出来るよう各ケアマネのスキルアップに繋げていき質を上げる。

- 主な指標

*2022年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
ケアプラン数	1630名	1,680名 (+50名)
平均要介護度	2.1	2.4 (+0.3)
単価 (人・月)	11,499円	11,914円 (+415円)

- 実現するための取り組み

- 登録者数

- 地域の医療福祉と連携し新規利用者の獲得を行う。

- 平均要介護度

- 毎月のモニタリングや各サービス事業者との連携の中で状態にそぐわない場合には区分変更申請を行い平均介護度を上げ、可能な限り住み慣れた自宅で暮らせるよう連絡調整を行う。

- 加算について

- 入院時や退院時などの医療との連携を密にとり、スムーズな入退院支援が行えるようにする。

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

平成ホームヘルプステーション黒磯（訪問介護）

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率93%以上を目標とし、収入を安定させる。
 - 毎週の営業を継続し、体験や新規の獲得に努める。
 - 空き状況を毎週持参する。
 - 施設での取り組みをタブレットを使用し見てもらいたい、雰囲気を感じてもらう。
 - 新規の事業所等へは、パンフレットを持参し施設へ来所してもらえらるるよう声掛けを行う。
 - 体験や新規の利用者の送迎時は、事前に訪問した職員が迎えに行くなど安心して利用できるよう配慮する。
 - 節電や節水に心がけ経費削減を行う。
 - 要介護度の高い利用者の獲得。
 - サービスの質
 - 利用者及び家族のニーズを把握し、在宅生活を支援する。
 - 個々の能力・身体状態に合わせたサービスを提供する。
 - 家族の介護負担を軽減出来るように相談・援助を行う。
 - 残存能力が維持できるように支援を行う。
 - 1人暮らしで準備の難しい方等も、居室内介助等で不安なく利用できるよう支援する。
 - 施設に来所するだけで、季節を感じられる飾りつけ等を行う。
 - 定期的に施設内の飾りつけを変更する。
 - 利用者にも協力してもらい楽しみを作る。
 - 中・重度の利用者の受け入れができる体制を整える。
 - 対応方法を周知し、サービスの一定化を図る。
 - 主治医や介護支援専門員との連携を図り、サービスの共有を図る。
 - 地域の連絡ツールを活用し、多職種との情報共有や連携を図る。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 毎月の勉強会・職員会議の実施し、職員の知識・技術の向上。
 - 無資格者への認知症介護基礎研修の受講。
 - 定期的な業務内容の見直しを行い、職員の負担軽減や環境整備に努める。
 - 改修工事
 - 一般浴室内にある使用不可の機械浴槽の撤去（2022年4月以降）

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	87.6%	93.3% (+5.7%)
平均要介護度	2.0	2.2 (±0.2)
単価 (人・日)	8,681円	8,749円 (+68円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 実人数を80名
- 体験から新規への獲得率90%以上

- 平均要介護度

- 胃瘻や導尿等医療面が必要な方でも受け入れている事を、居宅介護支援事業所に発信する。
- 独居の方でも安心して利用できるよう、居室内介助等の声掛け

- 加算について

- 個別機能訓練加算 I (口)
- 口腔・栄養スクリーニング加算 (I) (II) の算定：昼食後の口腔ケアの実施・定期的な体重測定の実施にて算定
- 口腔機能向上加算：定期的に口腔内の確認し、状態の把握
- 科学的介護推進体制加算
- 介護職員処遇改善支援補助金 (介護職員等ベースアップ等支援加算) の新規算定

- その他取り組み

- 地域の保育園からの月一回の慰問を継続
- あんま、足つぼ等のリフレクソロジーの提供

平成ホームヘルパーステーション黒磯（訪問介護）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 延べ訪問件数月345件を目標とする。
 - 居宅や地域包括への営業。
 - 業務の改善、効率のよいシフトとルート作成に努める。
 - 人員の確保により、利用者の受け入れ体制を強化する。
 - サービスの質
 - 作業手順の標準化や、訪問時に収集する情報等、必要項目の明確化でヘルパーによるサービスのバラツキを無くす。
 - サービス提供前の情報共有の徹底。
 - 利用者の状況の変化やニーズを的確に捉え、適切なサービスを提供する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 月1回のヘルパー研修、個別研修の実施
 - 定期的に個別懇談の機会を設け、ヘルパー個々の状況に配慮したスケジュール作成。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
延べ人数	3,713名	4,136名（+423名）
平均要介護度	2.2	2.2（±0）
単価（人・日）	4,476円	4,620円（+144円）

- 実現するための取り組み

- 利用者の確保
 - 質の高いサービス提供に努め、利用者、居宅からの信頼を得る。
 - ケアマネージャとの連携を密にし、毎月空き状況を伝える。
 - 施設入所、長期入院の利用者が出た時は、迅速に営業をすすめる。
 - 訪問介護員の人員確保に努め、新規依頼に確実に対応出来る体制を整える。
 - 効率の良い訪問スケジュール作成。
 - ヘルパー間の連携と、定期訪問によるアセスメントで、利用者の状態変化やニーズを汲み取り、ケアマネージャに訪問回数の増加やサービス内容変更等の提案を積極的に行い、サービス単価の増加に努める。

- 平均要介護度
 - ターミナルの利用者様の依頼なども積極的に受け入れ、訪問看護と連携しながら最後まで安心して在宅生活が送れるよう支援する。
- 加算について
 - 特定事業所加算Ⅱの算定
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム鳴門（グループホーム）【定員：18名】

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム鳴門（グループホーム）【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 訪問や電話での営業活動を行い待機者増加を図る
 - 待機者への定期的な連絡実施
 - 経費削減（節水、節電、消耗品管理の徹底）
 - サービスの質
 - 家庭的な雰囲気安心して生活できる環境づくり
 - 家族様からの意見等に迅速に対応できる職員体制
 - 職員の意欲や質の向上
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修に参加し知識、技術の向上を図る
 - 職員が相談しやすく働きやすい環境づくり
 - 改修工事
 - 非常口ドアの修繕

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	93.7%	98.6% (+4.9%)
平均要介護度	2.7	2.6 (-0.1)
単価（人・日）	12,061円	12,131円 (+70円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 病院や居宅介護支援事業所等との連携を図り、空床日数を少しでも減らす
 - 問い合わせの連絡があればすぐに対応を行い、待機者数の増加につなげる
 - 入居様様の体調変化があれば、早急に協力医療機関へ相談を行い対応していく
 - 平均要介護度
 - 入居様様の日々の身体状況を確認し、必要があれば区分変更をすみやかに行う

- 加算について
 - 生活機能向上連携加算：算定割合を現在の27%から50%に増やす
 - サービス提供体制強化加算Ⅰ：介護福祉士資格取得の条件を満たしている職員については受験を進めてみる。働きやすい職場環境を作り長年勤務者の増加を図る
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
- その他取り組み
 - 外出や買物の回数を増やして楽しみをもってもらう
 - 入居者様の希望に沿い季節行事以外での催し物を計画する
 - 壁画や作品作り等の作業を楽しんでいただき、職員一緒に季節に合った空間を作る
 - 入居者様の日々の生活・活動を写真に撮り家族様へ提供

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率85%以上を目標とし、収入を安定させる
 - 節電、節水など経費削減
 - 地域活動や行事に参加し貢献
 - サービスの質
 - 残存機能低下を防止し、ADL向上と自立化を目指す
 - 意欲低下を防止し、五感の刺激と心の活性化を目指す
 - 個別レクリエーションや生活リハビリテーションの充実を図る
 - 多職種の専門性を生かし、中・重度要介護者を受け入れる
 - 人材を確保し、定着させる
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 無資格者への認知症介護基礎研修の受講
 - 外部研修やweb研修への参加
 - 時間外労働をなくし、働きやすい職場環境作り
 - 改修工事
 - 給湯機交換(2台あるうちの1台で賄っている)
 - その他
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の強化
 - 職員のメンタルヘルスケア

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	83.2%	87.0% (+3.8%)
平均要介護度	1.7	1.8 (+0.1)
単価 (人・日)	7,743円	7,826円 (+83円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 営業は多職種で行い、チーム介護をアピールする
- 営業を欠かさず、ケアマネの要望に応え、次の体験・新規利用へと繋げる
- ケアマネとの連携強化、随時訪問や連絡をし、情報を共有する
- 体験では活動の写真を撮影し、ご家族様やケアマネに報告し獲得に繋げる
- 当日キャンセルは早い日程で振替利用を徹底する

○ 平均要介護度

- 認定期間中でも状態に変化があった時は、区分変更申請の相談をケアマネに相談する
- インスリン注射、胃瘻や導尿等医療面が必要な方でも受け入れている事を、居宅介護支援事業所に発信する

○ 加算について

- 生活機能向上連携加算：ご利用者様の50%→70%に算定できるように増やしていく
- 入浴介助加算(Ⅱ)：ご家族様やケアマネにご理解していただき、人数を増やしていく
- ADL維持等加算(Ⅰ)：LIFEへのデータ提出を継続し、算定条件をクリアする
- 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定

○ その他取り組み

- 2度目の百寿お祝い会を開催する
- 感染対策を図りながら、外出行事やイベント、ボランティアなどの心が動くレクリエーションを企画する
- ホームページのブログの更新を週1回から週2回にし、イベント活動以外の普段の様子などもご家族様やケアマネへのツールとして活用する

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 医療度や介護度、重度な方、退院後の行き先に困っておられる方等、積極的に受け入れを行い、支援の幅を広げると共に次回の利用者様紹介への機会に繋げる。また小規模の特色を生かした柔軟なサービス提供により、居宅サービスとの差別化を図る。

- サービスの質

- 利用者様の心身の状況や意向等、個々の状態に応じて柔軟な支援を行う。社会との繋がりを持ち、住み慣れた地域での生活が続けられるように留意する。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、利用者様に安心してサービスを利用していただけようとする。
- 新しいレクリエーションやイベントの開催、生活リハビリを含むそれぞれの状態に応じた活動支援。また、個別レクや趣味活動支援等、活気や充実感のある時間を過ごせるようにする。

- 人材育成、職場環境の整備

- 全ての職員が質を向上していけるように必要な資格取得を目指す。
- 職員の経験や習熟度等に応じて研修参加への機会を設ける。
- 個々の勤務状況、ストレスや健康状態を見ながら、働きやすい職場環境を整える。また職員の経験や能力に応じた役割分担等により、やりがいを感じながら、責任を持って働けるようにする。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
登録者数	16名	23名（+7名）
平均要介護度	2.0	2.3（+0.3）
単価（人・月）	4,892円	5,109円（+217円）

- 実現するための取り組み
 - 営業活動
 - 包括への営業を強化し、介護保険新規申請の利用者獲得を目指す。
 - 併設の有料老人ホームとの連携。入居や見学のタイミングでサービスの案内をする。
 - 市内の中心拠点となる医療機関へ定期的に登録状況等の情報を共有し、対象者の受け入れを速やかに出来るようにする。市内医療機関のネットワーク内にて情報を共有していただく。
 - 平均要介護度
 - 状態に変化があれば、介護度の見直しを行う。
 - 介護度2.3以上を目指す為、要介護3以上の利用者受け入れを積極的に行う。
 - 加算について
 - 生活機能向上連携加算：定期的な評価の上、取りこぼしのないように確実に算定できるようにする。
 - サービス提供体制強化加算：介護福祉士の取得条件を満たす職員については、受験を勧め、資格を取得してもらえようとする。
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - その他取り組み
 - 感染対策を感染状況を見ながら、地域交流を少しずつでも再開していく。地域の方々との交流により、施設周辺の状況や課題を把握し、サポートが必要であれば、包括等関係機関との連携により支援を行っていく。
 - 包括、居宅が主催するオンライン研修への積極的な参加を行い、各事業所との関係性を構築する。

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：25名】

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：25名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の向上
 - 年間通して85%以上を目標とする。
 - 登録者数を55名から60名まで上げる。
 - 待機枠の確保。
 - 経費削減
 - サービスの質
 - 人員確保
 - 満足度の向上
 - 利用者一人一人への細かな対応。接遇の見直し。
 - 感染対策を講じた上でのレクリエーションの充実
 - 行事などの催しを開催
 - 個別機能訓練内容の検討
 - 職員への教育やマニュアルの見直し、周知徹底
 - 多職種との連携強化
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 無資格者への認知症介護基礎研修受講
 - 外部研修やWEB研修参加
 - 定期的な業務の見直しを実施。職員の負担軽減や環境整備を図る。
 - 適正な人員確保により時間外労働をなくし離職率の減少を図る。
 - 改修工事
 - 電化製品や給湯器の経年劣化
 - その他
 - 新型コロナウイルスの感染対策強化

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	77.3%	87.8% (+10.5%)
平均要介護度	1.7	1.8 (+0.1)
単価 (人・日)	7,288円	7,519円 (+231円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 協力医療機関、グループ内居宅介護支援事業所との連携強化
 - 併設施設からの紹介
 - 営業件数月40件の実施
 - ケアマネとの連携強化、随時訪問や連絡実施、情報の共有
 - 体験利用者の獲得率を100%となるようサービス改善
 - 平均要介護度
 - 認知症の方、医療必要度の高い方への受け入れ体制を整え、サービスの一律化、業務効率改善、人員確保を図り、要介護度の高い方への受け入れを積極的に実施
 - 加算について
 - ADL維持等加算算定に向けてデータ提出の継続
 - 入浴介助加算(Ⅱ)の算定に向けて対象者の検討実施
 - 利用者、ケアマネへの説明や実施に向けての準備
 - 介護職員処遇改善支援補助金（介護職員等ベースアップ等支援加算）の新規算定
 - その他取り組み
 - 利用者を選んで頂けるような企画やレクリエーション、接遇の実施
 - 定期的にサービス内容の検討、見直し、振り返りを行い、地域の中で一番良いと、居宅支援事業所や地域の方に口コミが広がるよう目指していく。

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の向上
 - 待機者の確保
 - 入退居者関係の方との連携
 - 入院中の状況共有
 - 感染対策の徹底
 - 施設内での濃厚接触者0
 - 環境消毒、マスク着用、手指消毒を徹底
 - サービスの質
 - コロナ禍における精神的フォロー
 - 感染状況を見て面会制限緩和
 - オンライン面会の活用
 - 面会禁止時の最近の様子を家族に報告
 - 相談しやすい関係性
 - 満足度の向上
 - アンケートの実施
 - 施設の環境整備
 - 季節感のある施設づくり
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 職員の精神的フォロー
 - 自粛生活によるストレスの軽減
 - 話しやすい関係性
 - 職員研修の充実
 - 定期的な研修
 - 日常的な感染症対策の確認

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	96.3%	98.5%(+2.2%)
単価（人・日）	2,633円	2,777円（+144円）

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 待機者の確保
 - 営業件数月20件以上
 - 待機者へ月1回は状況連絡
 - 入退居者関係の方との連携
 - 空床期間が2週間以内
 - 入院中の状況共有
 - 入院時には、週1回状況確認
 - 感染症対策
 - 施設内クラスターを起こさない
 - 入居者、職員の健康管理
 - 早めの対応、検査の実施
 - 定期的に感染症の研修
 - 日常的に感染予防
 - 施設内での濃厚接触者0
 - その他の取り組み
 - 季節感のある施設づくり
 - 毎月、季節感のある花を飾る
 - 季節感のある料理を選択できる日をつくる

2022年 3月29日

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

高齢者事業

訪問ステーションてとと東大阪（訪問看護）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - コロナ禍におけるサービスの変動にも対応していけるよう常に準備し、対応していく
 - 稼働率の維持・向上
 - 看護
 - スタッフ一人あたり平均：4～5件/日（80～90件/月）のサービス提供を実施
 - リハビリ
 - スタッフ一人あたり平均：5～6件/日（100～110件/月）のサービス提供を実施
 - リハビリのみの利用者にも、看護師サービス必要性を見出し、看護サービスの併用を勧める
 - 看護師モニタリング時に、看護師によるサービスの必要性や定期訪問すべき意義を見出し、可能な限り看護師での算定を実施していく
 - 業務効率の向上
 - 上記訪問件数に達するため、中長期的にスケジューリングの改善を実施し、効率良く訪問できるように調整していく
 - 看護管理者+リーダー役を設置し、管理者の指示を待たずとも対応できる体制を整える
 - 訪問人員確保
 - 訪問看護職員が全体の6割以上になるよう事業所の体制を整えていく
 - 看護職員にあわせてリハビリ職員の増員も検討していく
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 新入職員の研修体制整備
 - 研修スケジュール立案
 - チェックシートを作成し、フィードバックできる体制を整える
 - 既存職員にも定期的な面談を実施
 - 社会的マナーや業務内容・目標を盛り込んだチェックシートを作成
 - 訪問サービス含め、日常の事業所内業務においても、業務が効率良くまわるために1人1人に気付きを促していく
 - 頻度：半期に1回実施

- サービスの質の向上
 - 管理者のみならず、空いた時間にスタッフ同士による同行訪問を実施
 - より多角的視点をもって利用者に対応できるようにするため
 - バイアスを取り除く、気付きを増やす目的
 - 同行訪問後は適宜協議・指導を実施し質を確保
 - 定期的なカンファレンスを実施
 - 月に1~2回、カンファレンスを実施し、情報共有及び多角的な視点をもってサービスを実施できる体制をとる

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
延べ人数	14,592名	15,618名 (+1,026名)
平均要介護度	2.7	2.7 (±0.0)
単価 (人・日)	4,371円	4,390円 (+19円)

- 実現するための取り組み

- 人員確保
 - 看護人員を確保するための求人活動を実施
 - 無料・有料媒体の利用
 - 紹介制度・入職お祝い金制度を利用
 - 人員確保に伴い、利用者の受け皿の安定化を図る
- 利用者の確保
 - 上記人材確保とともに、積極的な営業を実施
 - 主治医・ケアマネージャーに対し月1回は必ず訪問し、利用者の状態報告実施及び情報共有を図る
 - 連携先として信頼を得ることで次の利用者紹介につなげる
- その他取り組み
 - コロナ禍におけるスタッフのメンタルヘルスケア
 - コロナ禍において、不安やストレスを抱えながらも、職場内で気軽に会話や相談をする機会が減少してしまっている
 - 定期的な面談（接触時間・環境を配慮したうえで）等を実施し、心の問題の早期解決をはかる
 - 一人一人の変化に早急に気付けるようにするとともに、
 - スタッフ間・事業所内コミュニケーション機会の確保
 - 感染対策を徹底したうえで、コミュニケーションをとれるような環境をつくる
 - 看護サービス算定増加に向けた取り組み実施
 - リハビリのみの利用者様へ看護師モニタリングの意義を見出し、本人、ご家族、ケアマネ、主治医に提案し、看護師訪問による算定を強化していく

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと小平（訪問看護）

ケアプランセンター てとてと小平（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとと小平（訪問看護）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率、売上増加及び維持
 - 職員1名あたり1日あたり4名～5名（訪問看護）、5名～6名（リハビリ）を努力目標とする。
 - 職員配置
 - 看護師とセラピスト配置割合において、看護比率を6割となる雇用を行う。
 - 経営分析と戦略査定
 - 毎月の収支の管理を行い、収益の安定を目指す。
 - 収支分析を行う事、全国の事業とも連携し収益安定が出来るよう目指す。
 - 法人、グループ内での連携強化
 - 互いに取得できる加算などを確認し、算定漏れがない環境を整える。
 - 地域貢献活動の充実
 - 昨年同様、市からの講師要請など可能な限り参加し、地域参加を行う
 - 市単位の連絡会に参加し地域で問題定義されている内容などを把握、対策を練り必要であれば、グループ内でも共有を行い解決に努める。
 - サービスの質
 - 利用者最優先での高品質なサービス提供を行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 産休者、退職者が本年度は復帰するため、久しぶりの訪問、看護業務に不安にならないよう、身体的、精神的にサポートを行う。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
延べ人数	9,419名	10,345名（+926名）
平均要介護度	3.9	4.0（+0.1）
単価（人・日）	5,371円	5,415円（+44円）

- 実現するための取り組み

- 利用者の確保
 - 現時点で、毎月平均1名（看護）1.5名（リハビリ）の新規依頼がある為継続し、売上向上及び維持に繋げる。

- 各病院と連携し、ケアマネを介さずに対応するケース（医療保険）対応を行う。
- 加算について
 - 看護体制強化加算の取得
 - 特別管理加算の割合20%を目指す。
 - 特別管理加算Ⅰ及びⅡを取得している方が現時点10%のため、原則として、依頼を断らない姿勢は保ちながら、営業時などで継続して対応可能であることを営業を実施
 - その他取り組み
 - 退院時の看護訪問の実施
 - 医師と連携し、退院時からの訪問看護を積極的に取り入れていく。

ケアプランセンター てとと小平（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善、経営分析と戦略策定
 - 居宅1名持ち件数を30件～35件を目指す。
 - 毎月の収支・人員配置等の管理を行い、収益の安定を目指す。
 - 収支分析結果をフィードバックし、稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 総合事業と介護との割合の見直し
 - 現時点で54件中6件での件数を持っているため、継続して要介護、要支援の割合を維持する。
 - 法人、グループ内での連携強化
 - 看護、リハビリの付帯事業と密な連携を取り、相談及びサービスを振り分けられる環境を強化していく。
 - グループ内の居宅連絡会を通して、知識向上や加算取得を行っていく。
 - 地域貢献活動の充実
 - 小平ケアマネ連絡会の定期的参加を含め実施していく。
 - サービスの質
 - 主任ケアマネを獲得した為、事業所内での研修を強化していく。
 - 利用者最優先でのサービスを目指すとともに、付帯事業（看護、介護、リハビリ）へのサービス振分を行っていく。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 本年度に入職者いるため、OJT、現管理者退職の引き継ぎを行う。

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
ケアプラン数	787名	809名 (+22名)
平均要介護度	3.1	3.3 (+0.2)
単価 (人・月)	12,553円	12,889円 (+336円)

- 実現するための取り組み

- 登録者数

- ケアマネ1名あたり35名の居宅件数維持を目指す。

- 加算について

- 居宅事業所加算

- 本年度において、3名のケアマネを採用予定
- 居宅事業所加算を算定し、より居宅単体での売上増加を目指す。

- 介護予防委託連携加算

- 包括から依頼を頂く場合、積極的に加算取得を行う。

- 通院時情報連携加算

- 医師の診察を受ける際に介護支援専門員が同席を行い、医師等と情報連携を行い、当該情報を踏まえてケアマネジメントを行う。

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

ケアプランセンター てとてと徳島（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとと徳島（訪問看護）

- 経営
 - 稼働率の維持、向上
 - コロナ禍において、職員、利用者の急な欠勤にしっかりと対応し、振り替え等にて現状の訪問件数の維持に努める
 - 新規利用者増加に向けて、現在関わりのある主治医、ケアマネジャー、他事業所の訪問看護事業所との連携を深め、共同でサービス提供に関わり提供数を増やせるように努める。また、総合病院、一般病院、診療所、居宅介護支援事業所への営業を強化し、利用者の獲得を目指す
 - 経営分析と戦略策定
 - てととと事業会議、自事業所での管理者会議にて、収益増減の分析と対策に向けた戦略会議を実施する
 - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の理由を分析する
 - グループ内での連携強化
 - 後方支援病院である、博愛記念病院、徳島平成病院の看護部長、地域連携室職員と連携し、入院患者の情報収集、退院後の訪問サービスの検討を随時行い、退院後の在宅支援強化に努める
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域ケア会議に積極的に参加し、地域高齢者に対する支援の充実、社会基盤の整備に貢献する
- サービスの質
 - ターミナル、末期癌、重度疾患の利用者に対応できるように、疼痛管理、経管栄養、褥瘡処置、人工呼吸器管理等、在宅で必要とされる高度な看護提供を安全に実施できるように実技研修を行う
 - 各種医療専門資格の取得に励み、知識、技術の研鑽に努める
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 月に1度、担当制にて実症例を交えながら症例検討会を開催
 - 外部研修会へ積極的に参加
 - eラーニング研修を活用し、余暇時間で受講できる体制を構築
 - コロナ禍における訪問サービス業務に対する不安やストレスに関して、全体会議、個別相談にて状態を把握する。
 - 感染対策備品を余分に蓄え、徹底した感染症予防対策に努める

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
延べ人数	15,751名	17,808名 (+2,057名)
平均要介護度	1.9	2.1 (+0.2)
単価 (人・日)	4,919円	5,011円 (+92円)

- 実現するための取り組み

- 利用者の確保

- 特定行為研修修了者の常勤看護師1名が入職予定であり、合計2名で特定行為が対応可能となる。重度褥瘡、人工呼吸器管理、インスリン投与、輸液管理等の重度疾患の在宅療養者に対するの対応がより手厚くなる為、診療所医師や総合病院支援センターへの営業を強化し、外部訪問看護事業所が対応困難な利用者を積極的に受け入れていく。
- 前述の看護師入職により、オンコール体制が手厚くなる為、末期癌、ターミナル状態にある利用者もより積極的に受け入れを強化していく。
- 看護、リハの各々の既存利用者で互いのサービスの必要性を検討し、同じ利用者へ看護とリハで協同してサービス提供が出来るように検討する。

- 加算について

- 新型コロナウイルス感染症者に対する訪問看護師のサービス提供により、特例で、医療保険での提供における長時間訪問看護加算、特別管理加算Ⅱが算定可能

- その他取り組み

- 新型コロナウイルス感染症予防の対策を強化する。感染症対策備品の確保、後方支援病院との連携に努め、職員、利用者における感染後の対応の指針を策定する

ケアプランセンター てととと徳島（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、向上
 - 職員1名あたり35名の担当数を担保する
 - 経営分析と戦略策定
 - てととと事業会議、自事業所での管理者会議にて、収益増減の分析と対策に向けた戦略会議を実施する
 - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の理由を分析する
 - グループ内での連携強化
 - 後方支援病院である、博愛記念病院、徳島平成病院の看護部長、地域連携室職員と連携し、入院患者の情報収集、退院後の訪問サービスの検討を随時行い、退院後の在宅支援強化に努める
 - サービスの質
 - 毎月1回以上は、利用者及び家族への訪問、連絡を行い、在宅生活での不安や今後の希望を聴取し、柔軟にニーズへ対応できるような居宅計画の作成に努める
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 月に1度、グループ内の他居宅事業所とともに症例検討会を開催
 - 外部研修会への積極的な参加
 - 主任ケアマネの取得
 - ICT機器を導入し、書類業務の負担軽減に努める
- 主な指標 *2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
ケアプラン数	811名	840名（+29名）
平均要介護度	2.1	2.3（+0.2）
単価（人・月）	12,238円	12,444円（+206円）

- 実現するための取り組み
 - 登録者数の増加
 - 現在関わりのある主治医や他事業所職員、また総合病院、一般病院の地域連携室へ、定期的に訪問を行い、各入院状況の情報収集、紹介へとつながるように連携に努める
 - 地域包括支援センターと連携し、グループ関連で関わりのあるサービスを利用されている要支援者が要介護となった場合、担当を担えるよう窓口を設置
 - 平均要介護度
 - 目標平均要介護度を達成する為に、要介護度の高い重度疾患利用者の受け入れを積極的に行い、算定報酬の増加に努める
 - 重度疾患利用者に対応できるよう、様々な介護サービスの把握、計画立案に努める
 - 加算について
 - 特定事業所加算Ⅲを算定できるよう、主任ケアマネ1名の増員に向けて、取得研修会を引き続き受講する
 - 担当利用者の内、重度疾患、癌ターミナルの利用者を増やし、ターミナルケアマネジメント加算、緊急時等居宅カンファレンス加算の算定数増加に努める

2022年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

障害者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

障害者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 主に、精神障害をもつ方の就労訓練施設として、利用者個々のニーズに合わせた仕事の提供を行っている。また、単に「仕事をする場所」というだけではなく、困ったことを気軽に相談することができるよう体制を整えている。
利用者の「働きたい」という思いを第一に考え、短時間で少ない日数からでも利用可能とすることで、「これまで仕事の経験がない」という利用者も気負うことなく仕事に来られるようにしている。仕事内容に関しても、接客や調理補助、パン作りなどのレベルの高いものから焼き菓子の包装やカカオ豆の殻剥きなど比較的平易でやりやすいものまで、様々なレベルのものを用意し、利用者がやりがいを感じられるような支援を行っている。一般就労を目指す方には、関係機関と連携して目標に向けた支援を行っている。
 - サービスの質の向上
 - 利用者主体のミーティングを毎月実施
 - OUCHIでの仕事の困りごとやOUCHIでやりたいこと・実現したいことなど、安心して自由に発言できる場を設けることで、モチベーションの維持・向上や適切な自己表現を身につけることを図っていく。
 - 利用者への振返りを定期的に行う
 - 定期的に仕事の状況や作業量、体調、本人を取り巻く状況などを個別にヒアリングする振返りの機会をつくることで、利用者の状態や現状の評価を行い、それを日々の支援にフィードバックすることで稼働率アップにつなげていく。
 - いつでも相談できる環境を整える
 - 利用の有無に関わらず、OUCHIに来ればいつでも相談したり話したりできる体制を整え、利用者にとってOUCHIが安心できる場となることを目指していく。
 - 利用前に健康・身だしなみチェック、利用後には当日の体調や作業状況のチェックを行い、日常的に利用者との密接なコミュニケーションの機会を増やす。
 - 利用者同士の交流会を実施する
 - 利用者同士の交流の輪を広げ、利用者にとって安心できる自己表現の場となることを目指して、毎月第2土曜日にOUCHI交流会を実施する。

- 人材育成、職場環境の整備
- 研修の実施
 - 虐待や権利擁護、防災等に関する研修を行う。
 - 社会資源や制度など利用者の支援に必要な知識に関する勉強会を行う。
 - 施設内のみではなく外部の研修への積極的な参加を促進する。
 - 業務量、業務内容の適切な管理を行う。
 - チームとして利用者の支援を行っていくためのミーティングなど、風通しのよい環境の整備に努める。

● 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	65.7%	90.0% (+24.3%)
単価 (人・日)	8,786円	8,786円 (±0円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 登録者数を定員最大の60名まで増やす。
 - 見学・体験の受け入れ
 - 利用対象となる方だけでなく、広く見学者の受け入れを行う。利用の見込みのある方には早めに体験利用の日程を設定し、利用開始時にはある程度OUCHIでの仕事に慣れている状態にしておく。
- 利用者の通所の安定化を目指す。
 - 利用者の休みの軽減
 - 体調不良などで休んだ利用者には電話連絡をして状況を把握。悩みごとなどある場合は傾聴し、不安をできるだけ取り除けるよう支援していく。
 - 利用者への支援の充実
 - 職員の資質向上
 - 精神障害の特徴や関わり方、障害者の権利擁護・虐待防止などについての施設内研修を行う。また、施設内だけではなく東京都主催を含む外部の研修会等にも積極的に参加し、それぞれの職員が自身の資質向上に努める。
- 利用者の利用日数の拡大
 - 利用者と定期的に面談をして作業や心身面の評価を行い、利用時間や曜日の拡大を図る。

- 利用者への支援の充実
 - 一般就労への移行支援の強化
 - 就労B型から一般就労へ移行できるように就労移行支援事業所やハローワークなどの関係機関と連携する。
 - 一般就労を目指す利用者に向けて、グループ内外の就労先の紹介、支援機関などの情報を必要に応じて提供する。また、移行先でも継続的に就労が続けられるように、OUCHIの利用終了後も困ったことがあったら話を聞いたり相談にのれるようにサポートする。利用終了後も、OUCHIのメンバーと交流できるように定期的に交流会を行う。
 - 大内病院との連携の強化
 - OUCHIでは就労を通じて働くために必要な体力や知識を身に着けるための支援以外にも、地域で安心して生活ができるよう大内病院や在宅部門と協力して包括的に支援する。
 - 地域との交流を増大
 - 地域のフォーマル、インフォーマルな機関とつながり、利用者と地域の人たちと交流する機会を作る。
 - 足立区内で行われる行事への参加
 - 西新井地区の高齢者サロンの方々との交流
 - 大内病院在宅部門の利用者との交流（デイ・ACTなど）
 - 地域の方と交流できるようなイベントの実施
 - CAFEやKITCHENの商品を使ったワークショップの開催
 - 就労支援事業の拡充
 - 平均工賃の増額
 - 弁当事業の継続
 - 大内病院デイケア向けに提供している週3回の弁当と週2回のデザートを継続し、工賃の安定のために売上を確保する。
 - 商品の生産量の安定化
 - 例年多くのご注文をいただいているお中元やお歳暮を継続。それらを見越して安定した生産ができるよう、年間の生産計画を立てていく。できるだけ多くのニーズに応えるために、業務の効率化や利用者のスキルアップ支援を同時並行で行いながら、安定した生産量の確保を目指す。
 - 商品の販路拡大・新商品の開発
 - 昨年度は、イコーランド、エイタブリッシュ、ソーシャルグッドロースターズ千代田などグループ以外にもOUCHIのコ

ンセプトに共感し、商品を置いて下さる企業との連携が強化できた。今年度も外部とのコラボレート商品や新商品の開発をしながら、販路開拓を行う。また、足立区内でもOUCHIの商品を通じて地域の人たちと利用者が交流できるような販路先を作っていきたい。また、売店や高齢者施設向けの新商品などの開発を行い、さらなる販路拡大を図っていく。

- CAFEの売上向上
 - コロナウイルス感染拡大の影響で取りやめていたイトイン営業を、11月にメニューを縮小した形で再開。来年度はメニューの刷新を行い、フード・ドリンクともに充実させていく。新メニューや季節のメニューなどの情報を積極的にSNSで配信し、集客アップを目指していく。

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持
 - かりん、HOMEともに稼働率100%維持を目標とする。
 - サービスの質の向上
 - 入居者の体調管理、活動支援
 - 訪問看護やACTなど、医療と協働で体調や服薬の管理を行っていく。訪問看護を利用していない入居者に関しても、必要に応じて通院先の医療機関との連絡や通院同行を行う。
 - デイケアや作業所などの日中活動先と必要に応じて情報共有を行い、場合によっては同行するなどして連携を図る。
 - イベントや行事の充実
 - 入院ではない環境で暮らすこと、仲間とともに暮らすことの楽しさを感じてもらうことを目的とする。
 - 入居者それぞれが退居先で自立した生活を送るための支援
 - GH入居中から退居後の生活を意識できるように、地域のルールに合わせてゴミ捨てなどのルールを設定する。
 - 入居者ミーティングの開催
 - 入居者同士でミーティングする機会を多く持ち、集団生活の中での社会ルールやコミュニケーション能力を養う。
 - ミーティングはHOME、かりん、合同のそれぞれを必要に応じて実施する。

- 人材育成、職場環境の整備

- 研修の実施

- 虐待や権利擁護、防災等に関する研修
 - 社会資源や制度など入居者の支援に必要な知識に関する勉強会
 - 施設内のみではなく外部の研修への積極的な参加

- 職場環境の改善

- 業務量、業務内容の適切な管理
 - 担当制の導入
 - 入居者それぞれに主となるスタッフを設定。入居から退居までの対応窓口を一本化することでスムーズな支援の実現を目指すと同時に、業務の偏りを軽減する。
 - チームとして入居者の支援を行っていくためのミーティングなど、風通しのよい環境の整備

- 主な指標

*2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
稼働率	70.2%	100.0% (+29.8%)
単価 (人・日)	3,930円	3,990円 (+60円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- かりん

稼働率の低下の最大の要因は、入居者の再入院である。

- 再入院の予防のために、入居者との日々の関わりを通じて様子観察をしっかりと行い、スタッフ間での情報共有を徹底する。また、体調悪化時の対処法もスタッフ間で共有する。
 - 滞在型とはいえ状況によっては退居となることもあるため、空きが出た際はすぐに入居できるように、日頃から大内病院をはじめとする関係機関との連携を密にしておく。

- HOME

- 退居後の空室期間をできるだけ短くするために、大内病院や他機関との連携を密にすることで待機者が常に数名確保されている状態を維持する。

- その他取り組み

- SPACEを活用してピアサポートや相談できる居場所を作る
 - 来年度も引き続きグループホーム入居者のOUCHI交流会への参加を促し、スタッフも利用者も含めてOUCHIが一体感を感じられる施設となることを目指していく。

2022年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

- 事業計画の概要
 - 令和4年度の岩国市委託料 18,800,000円/年 予定
 - 常に公正と中立性を保ち、地域包括支援センターを運営する
 - 介護予防・自立支援の促進と高齢者の社会参加・地域活動の促進を図る
 - 地域包括ケアシステム構築に向けて地域や他機関と連携して業務に取り組む

- 主な指標 *2021年度：2022年3月の見込値を含む

	2021年度*	2022年度 目標
ケアプラン数	1,934名	1,920名 (-14名)
平均要介護度（要支援）	1.7	1.7
単価（人・月）	4,380円	4,380円

- 実現するための取り組み
 - 登録者数
 - 事業対象者と要支援1はサービス卒業を目指すプランニングを継続する。
 - 自助、互助による取り組みを促し、介護予防・自立支援の促進を図る。
 - サービス終了後も状況把握を行い、必要時には早期介入を行う。
 - 平均要介護度
 - 岩国市では要支援1の総合事業利用期間が原則6か月である。その為、必要時変更申請が増えており、要支援2が増加傾向。要支援1も2も単価は同等。
 - 加算について
 - 初回加算：3,000円
 - 委託連携加算：3,000円（全て委託の居宅に支払い）
- その他の取り組み
 - 介護予防教室の開催
 - 教室開催後「通いの場」としての活動継続をフォローする。
 - 地域ケア会議の開催
 - 支援困難事例への地域ケア会議や地域全体での地域ケア会議を開催する。
 - 認知症対策の推進
 - 認知症サポーター養成講座の開催、はいかい高齢者等SOSネットワーク事業の搜索協力事業所の新規開拓を図る。

2022年 3月29日

2022年度 事業計画書

社会福祉法人 平成記念会
サポートハウス ココロネ住吉

1. 2022年度 事業計画の概要

- **経営改善策**

- 2022年6月開設に向けて、新規開設を幅広く広報し、地域医療・地域福祉事業所等との連携を図り、ニーズに応える
- 入所、短期入所のニーズに速やかに応え、適切なベッドコントロールを実施する
- 生活介護、放課後デイは、受け入れ先の少ない、医療的ケアの必要な重症心身障害者の積極的な受け入れを行う

- **医療、サービスの質**

- 開設に向けて、新入職員対象の研修を5月より実施し、医療・福祉、グループの方針、重症心身障害者（児）の理解を深め、実践へと結びつける
- 他の事業所や支援学校等との交流を図り、個々に応じた療育活動を提案する

- **診療報酬改定への対応**

- データ提出加算の取得対応を進める

- **人材の確保、育成**

- 開設に必要な人材、人員の確保を行ない、新入職員向けの研修実施、およびOJTでの知識・技術の向上を図る
- 研修・勉強会の実施
 - 外部研修への積極的な参加
 - 無資格者への資格取得支援
 - 職種を超えた勉強会の実施
 - 接遇マナー向上

- **新規事業、改修工事（時期）**

- 6月開設に向けて準備をすすめる

- **新型コロナウイルスへの対応**

- 感染防止策のルール、マニュアル等の周知
- 適切な个人防护具、手指衛生等の実施
- 定期的な設備環境の清掃、消毒
- 職員の行動指針の理解、遵守
- 入所、短期入所サービス利用時の検査の徹底

詳細は下記の通りとする。

2. 事業計画

※ () の数値は前年比

a. 入所部門 (全体 : 100床)

i. 計画・施策

- 6月開設に向けて、個別相談会、申込みの実施を2021年度1月より実施
 - 障害者施設等入院基本料 13対1 (診療報酬)
 - 療養介護 (障害者総合支援法)
 - 医療型障害児入所施設 (児童福祉法)
 - 短期入所サービス (空床利用型)
- 行政、相談支援事業所等との連携により、入所者獲得に繋げる

ii. 主な指標

	2021年度	2022年度 目標
稼働率	—	60.0%
単価 (人・日)	—	32,000円
収益	—	700百万円

b. 外来部門

i. 計画・施策

- 発達障害外来、小児リハビリテーション外来をメインとして、地域ニーズに応える
- グループ関連病院である西宮回生病院との機能統合を図り、障害者 (児) に対する専門機能を高める

ii. 主な指標

	2021年度	2022年度 目標
外来患者延数	—	6,000名
外来患者数/日	—	20名
単価	—	7,000円
収益	—	42百万円

c. 在宅部門

生活介護【20名／日】

i. 計画・施策

- 6月開設に向けて、個別相談会、申込みの実施を2021年度1月より実施
 - 生活介護（障害者総合支援法）
- 受け入れ先の少ない、医療的ケアの必要な重症心身障害者の積極的な受け入れを行う

ii. 主な指標

	2021年度	2022年度 目標
利用者延数	—	1,200名
利用者数／日	—	6名
収益	—	9百万円

放課後等デイサービス【5名／日】

i. 計画・施策

- 6月開設に向けて、個別相談会、申込みの実施を2021年度1月より実施
 - 放課後等デイサービス（児童福祉法）
- 受け入れ先の少ない、医療的ケアの必要な重症心身障害児の積極的な受け入れを行う
- 支援学校等との連携により、統一した療育活動の実施

ii. 主な指標

	2021年度	2022年度 目標
利用者延数	—	600名
利用者数／日	—	3名
収益	—	12百万円

以上